

山北町地域公共交通計画

(素案)

令和 6 年 3 月
山北町

目次

I	はじめに	1
1.	計画策定の背景と目的	1
2.	計画の位置づけ	2
3.	計画の区域	2
4.	計画の期間	2
5.	計画策定の経緯	2
II	地域の現状等	4
1.	山北町の現状	4
2.	公共交通の現状	17
3.	主な関連計画の整理	22
4.	公共交通の利用実態把握	27
III	地域公共交通の課題	51
1.	地域公共交通の課題	51
IV	将来像と基本方針等	53
1.	地域公共交通の将来像の基本理念の設定	53
2.	基本方針の設定	54
3.	計画の目標	55
V	目標達成のための事業及び実施主体等	57
基本方針1	使いやすく移動しやすい地域公共交通ネットワークの構築	57
基本方針2	町民や来訪者にとって利用しやすい公共交通サービスの提供	59
基本方針3	みんなで守り、みんなで育む地域公共交通の実現	65
VI	計画の評価と達成状況の評価	67
1.	評価方法	67

I はじめに

1. 計画策定の背景と目的

本町における公共交通体系は、鉄道（JR御殿場線）、路線バス（富士急湘南バス）、コミュニティバス（山北町内循環バス）等が運行しているが、少子高齢化の進展や人口減少、自家用自動車の依存率の高さから公共交通利用者は減少傾向が見られ、民間交通事業者や自治体の財政負担が増加し、さらにはコロナ禍の影響も追い打ちをかけ、公共交通事業を取り巻く環境は年々厳しさを増している。また2024年問題も取りざたされている。

今後、更なる少子高齢化の進展や運転免許証返納者の増加などに伴い、公共交通の果たすべき役割はこれまで以上に重要なものになることが予想されている。

本町では、このような課題を踏まえ、今後の人口減少や高齢化を見据えつつ、持続可能な地域公共交通網を形成するため、「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」に基づく「山北町地域公共交通計画」を策定します。

SDGsとの関連

SDGsとは、持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現に向けた、17の目標（ゴール）と169のターゲットから構成される国際社会の共通目標です。2019年12月に国が策定したSDGsアクションプラン2020では、公共交通の分野においても、政府の進める具体的な取り組みの1つとして、「新たなモビリティサービスであるMaaSの全国への普及を図り、地域や観光地の移動手段の確保・充実や公共交通機関の維持・活性化等を進める。」と掲げています。

本町においても、SDGs達成に貢献できるよう、本計画を策定し、推進します。



2. 計画の位置づけ

本計画は、「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律第5条第1項」に規定する地域公共交通計画として策定します。

本計画の位置づけは、上位計画である山北町総合計画や都市計画マスタープランなどの関連分野別計画を踏まえて検討を行います。

本計画はこれらの関連計画に基づく交通分野の基本計画であり、本町の公共交通を考えていくうえで、今後の在り方を示す指針となるものです。

3. 計画の区域

本計画の区域は、町民の「日常生活の足」を確保・維持・改善するという観点から、山北町全域とします。ただし、町民の移動実態等を考慮し、町域外への移動で他自治体との広域連携が必要な場合は、協力して事業を推進します。

4. 計画の期間

本計画の計画期間は、令和6年度から令和10年度の5年間とします。なお、本町を取り巻く社会経済情勢、環境の変化や計画の進捗状況などにより、見直しの必要性が生じた場合には、適宜対応するものとします。

5. 計画策定の経緯

(1) 各種調査の実施

地域公共交通の実態を把握するために、下記の調査を実施しました。

①町民アンケート調査

調査対象：山北町内にお住まいの16歳以上の市民

調査方法：郵送配付・郵送回収

調査期間：令和5年11月6日～11月30日

回収状況：配布1,500件 有効回収792件（有効回収率52.8%）

④路線バス・コミュニティバス乗降調査

調査対象：路線バス・コミュニティバスの利用者（全路線）

調査方法：調査員による観測

調査期間：令和5年12月9日（土）、12月11日（月）の2日間

(2) パブリックコメント

計画素案ができた段階で、幅広く町民より意見を募集し、計画への反映に努めるために、パブリックコメントを行いました。

実施期間：令和6年 月 日（ ）～令和6年 月 日（ ）

提出方法：指定する場所への書面の提出、郵便、ファクシミリ、電子メール

(3) 地域公共交通会議

計画策定においては、様々な意見が計画に反映されるよう町民、地域公共交通に関する関係者等で構成される地域公共交通会議で計画の検討を行いました。

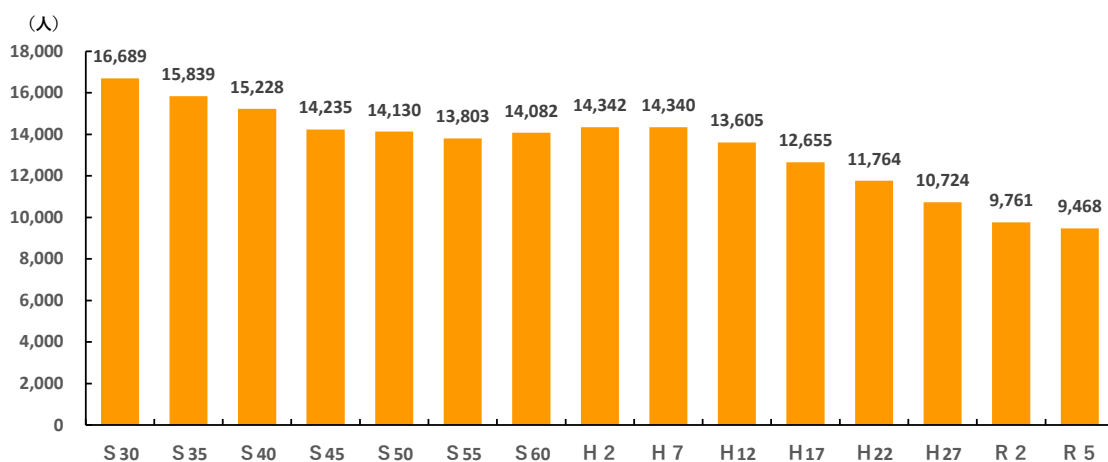
Ⅱ 地域の現状等

1. 山北町の現状

(1) 人口・世帯の動向

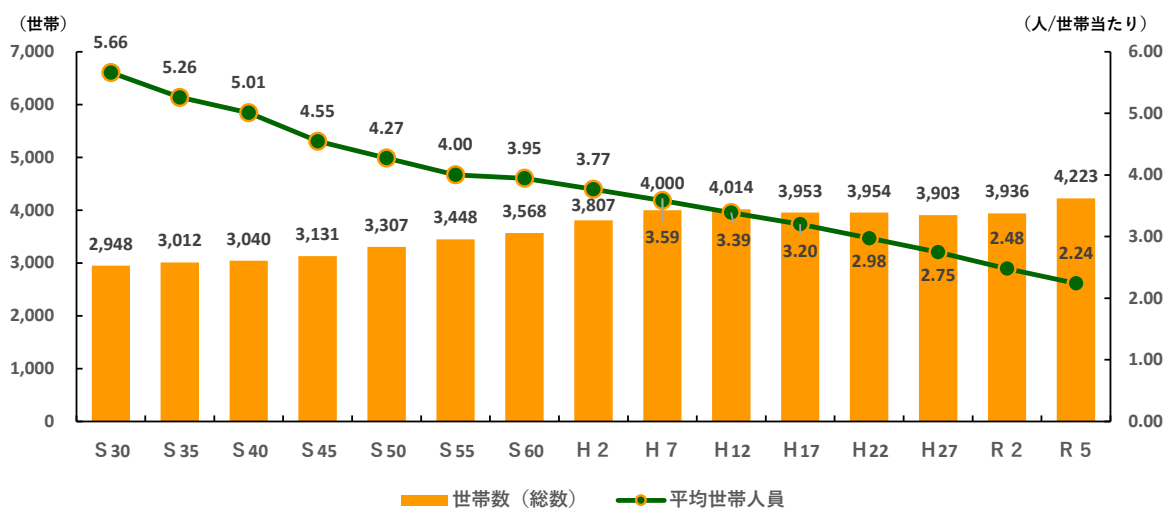
本町の人口は、昭和30年の16,689人をピークに減少が続いています。山北町人口ビジョンによると、令和27年には4,813人にまで減少する見通しとなっています。一方、世帯数をみると昭和30年の2,948世帯から令和5年で1.4倍の4,223世帯と年々増加しておりますが、逆に平均世帯人員は一貫して減少を続け、昭和30年の5.66人から令和5年には2.24人にまで減少しています。

■人口の推移



出典：山北町HP、山北町人口ビジョン

■世帯数及び平均世帯人員の推移

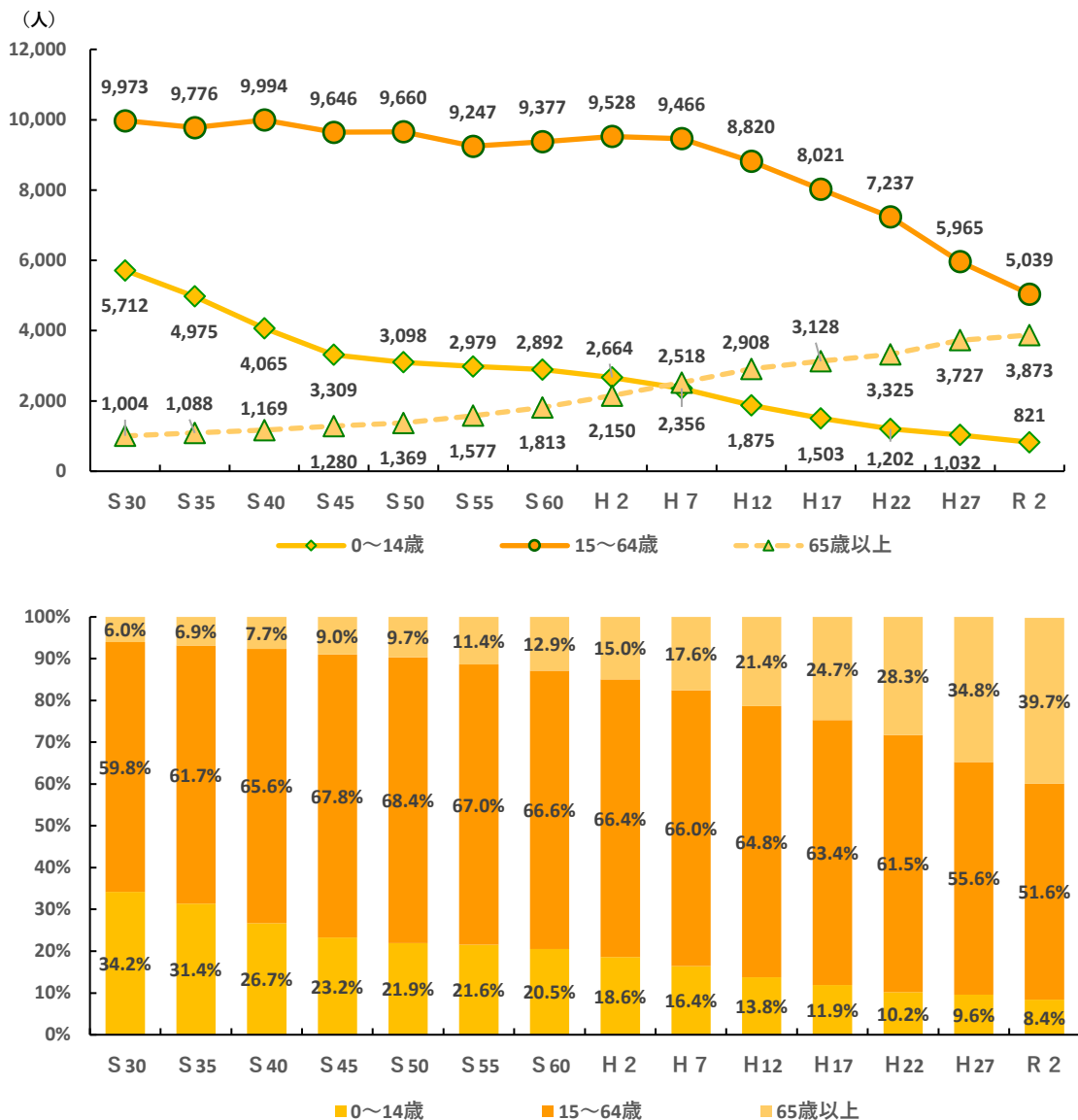


出典：山北町HP

① 年齢3区分別人口

本町の人口を年齢3区分別にみると、15歳未満の年少人口は減少を続けており、昭和30年の5,712人（34.2%）から令和2年の821人（8.4%）へと大幅に減少しています。また、15～64歳の生産年齢人口も、平成7年から減少が加速し、令和2年には5,039人（51.6%）と昭和30年から約半分となっています。一方、65歳以上の老年人口は増加傾向にあり、昭和30年の1,004人（6.0%）から令和2年には3,873人（39.7%）と、およそ4倍になっています。このことから、本町においても少子高齢化が進展していることがわかります。今後の見通しとしては、山北町人口ビジョンによると、年少人口および生産年齢人口はさらに減少する見通しとなっています。一方、老年人口は令和2年をピークに減少に転じるものの、その比率は5割弱を占める見込みとなっており、若い世代が減少するなかで、まちの活力が減退することが懸念されます。

■ 年齢3区分別人口の推移及び人口比率



出典：山北町統計書（令和3年度版）

② 地区別人口

本町の地区別の人口をみると、町の中心部である山北地域（山北地区・向原地区・岸地区・平山地区）に人口の約8割が集中しています。

地区	人口 (人)	人口比率 (%)
山北	2,828	29.9
向原	2,473	26.1
岸	2,397	25.3
平山	391	4.1
共和	157	1.7
清水	797	8.4
三保	425	4.5
合計	9,468	100.0

(2) 通勤・通学状況

①町内から町外への通勤・通学

令和2年の国勢調査では、就業・就学している町民の46.4%が町内で通勤・通学しており、半分以上の53.9%の人は町外へ通勤・通学している状況です。町外へ通勤・通学している人のうち、神奈川県内への通勤・通学者は2,478人で88.4%と大半を占めており、神奈川県外への通勤・通学者は357人で11.6%（静岡県5.9%、東京都5.2%、その他0.5%）となっています。町外への通勤・通学先としては、県内では小田原市（735人）、南足柄市（422人）、秦野市（310人）が多く、県外では東京特別区（117人）、御殿場市（65人）、小山町（64人）が多くなっています。

■山北町居住者の通勤・通学の状況

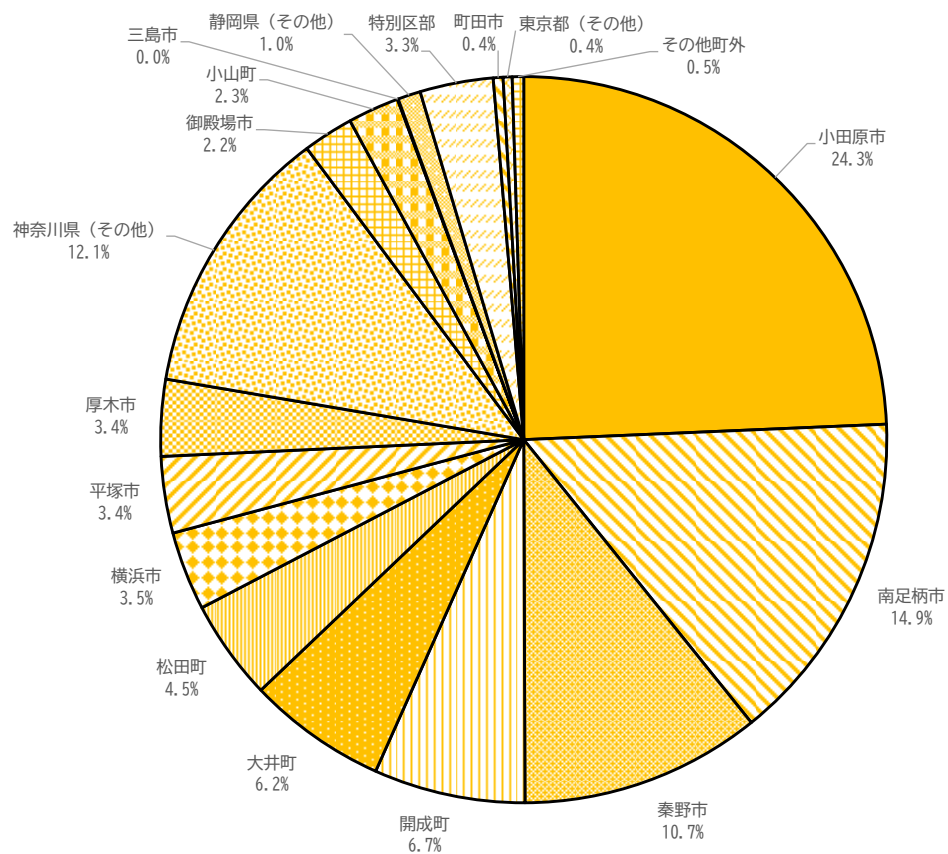
	就業者（人）	通学者（人）	就業・通学者 合計（人）	割合（%）
町内で就業・通学者	2,080	574	2,654	46.4
町外で就業・通学者	2,759	308	3,067	53.6
山北町に居住する就業・通学者	4,839	882	5,721	100.0

出典：国勢調査（令和2年）

■通勤・通学の状況（山北町外）

主な通勤・通学地		就業者（人）	通学者（人）	就業・通学者 合計（人）
神奈川県	小田原市	671	64	735
	南足柄市	411	11	422
	秦野市	296	14	310
	開成町	186	8	194
	大井町	171	6	177
	松田町	123	14	137
	横浜市	97	23	120
	平塚市	94	14	108
	厚木市	94	12	106
	その他	335	66	401
	小計	2,478	232	2,710
静岡県	御殿場市	62	3	65
	小山町	63	1	64
	三島市	1	14	15
	その他	28	8	36
	小計	154	26	180
東京都	特別区部	90	27	117
	町田市	12	10	22
	その他	11	11	22
	小計	113	48	161
その他の町外		14	2	16
合 計		2,759	308	3,067

出典：国勢調査（令和2年）



③ 町外から町内への通勤・通学

町内で就業・就学している人のうち町民が47.2%で、町外から通っている人は52.8%となっています。町外から町内に通勤・通学している人のうち、神奈川県内から町内に通勤・通学しているのは2,648人で89.1%、神奈川県外から町内に通勤・通学しているのは323人で10.9%（静岡県7.3%、東京都1.4%、その他2.2%）となっています。山北町外から通勤・通学している人の居住地としては、県内では小田原市（654人）、南足柄市（614人）が多く、県外では小山町（93人）、御殿場市（89人）が多くなっています。

■通勤・通学の状況

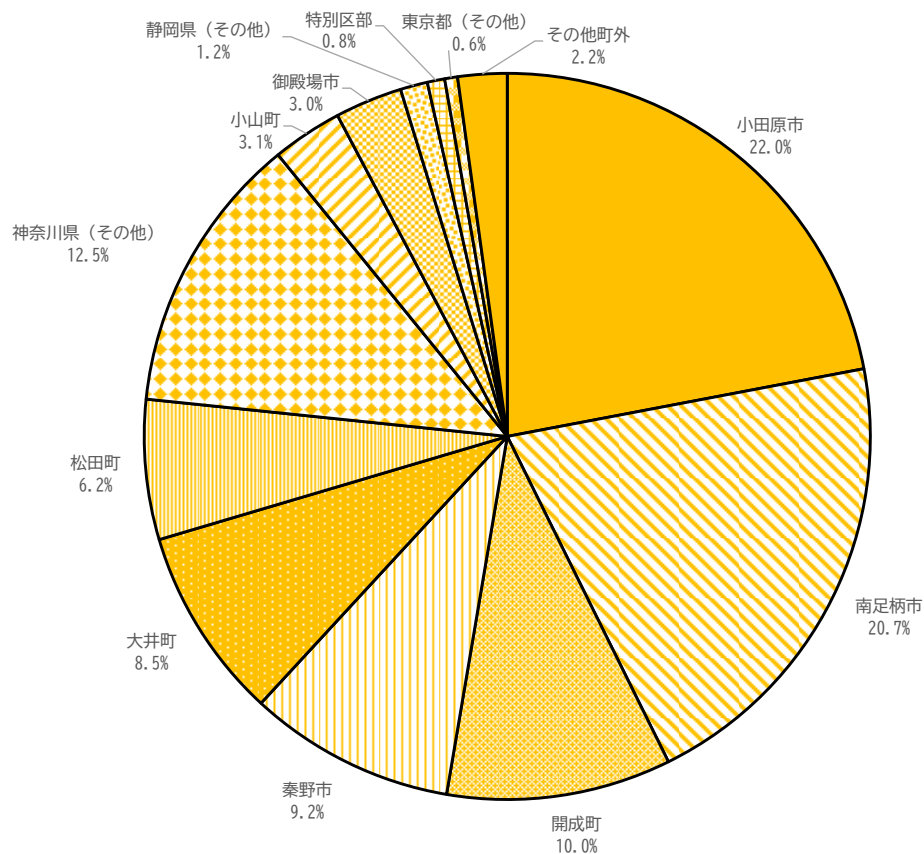
	就業者（人）	通学者（人）	就業・通学者 合計（人）	割合（%）
町内居住者	2,080	574	2,654	47.2
町外居住者	2,566	405	2,971	52.8
山北町での就業・通学者	4,646	979	5,625	100.0

出典：国勢調査（令和2年）

■通勤・通学の状況（町外→山北町内）

主な居住地		就業者（人）	通学者（人）	就業・通学者 合計（人）
神奈川県	小田原市	509	145	654
	南足柄市	543	71	614
	開成町	271	26	297
	秦野市	242	31	273
	大井町	208	46	254
	松田町	168	17	185
	その他	312	59	371
	小計	2,253	395	2,648
静岡県	小山町	93	0	93
	御殿場市	88	1	89
	その他	36	0	36
	小計	217	1	218
東京都	特別区部	20	3	23
	その他	17	3	20
	小計	37	6	43
その他の町外		59	6	65
合 計		2,566	405	2,971

出典：国勢調査（令和2年）



■通勤・通学の移動実態

山北町から町外への通勤・通学



町外から山北町への通勤・通学

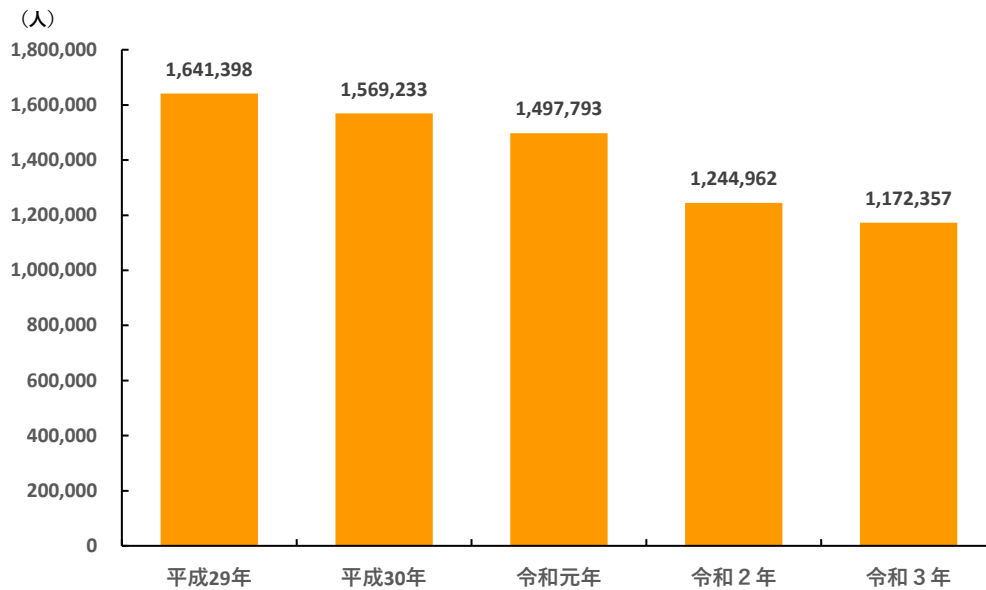


出典：国勢調査（令和2年）

(3) 観光入込客の動向

新型コロナウイルス感染症の影響もあり、令和2年には山北町内への観光入込客数は1,245,000人と減少いたしました。令和3年以降、観光需要喚起策である「かながわ県民割」や「かながわ旅割」等を実施するとともに、感染症対策等に多くの負担が生じた宿泊施設に対し、その経費等を補助する「宿泊施設感染症対策等事業費補助」を実施し、神奈川県全体への観光入込客数は若干の回復となったが、本町に関しては減少が続いている状況となっている。

■山北町への観光入込客数の推移

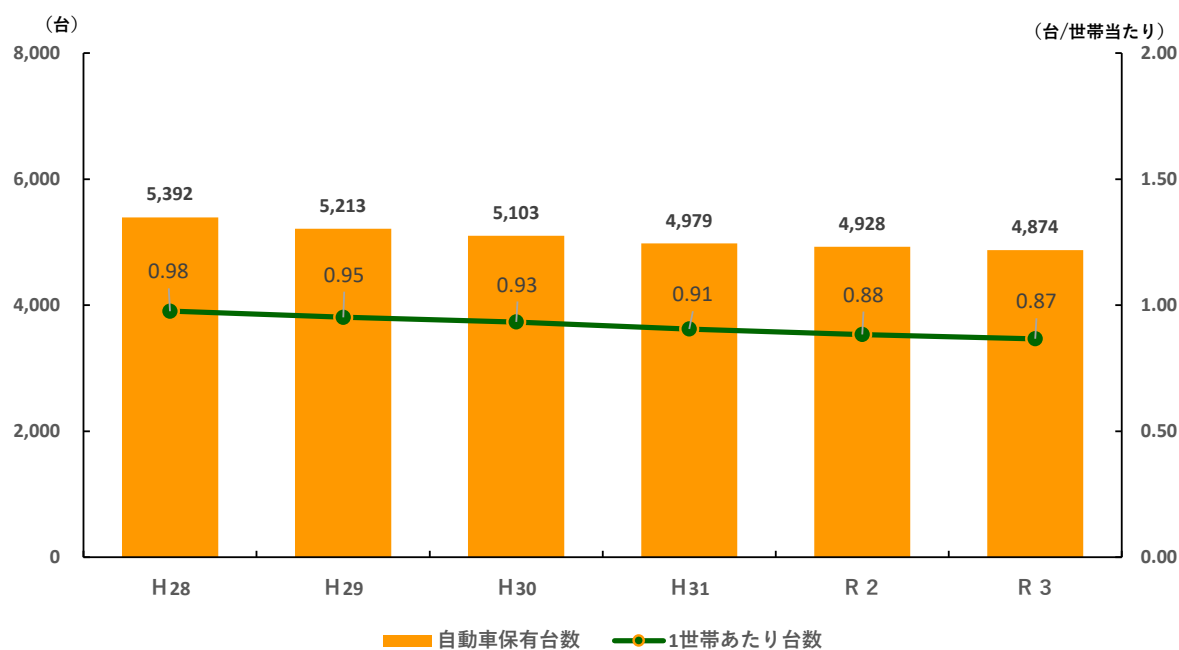


出典：山北町統計書（令和3年度版）

(4) 自動車の保有状況

本町の自動車保有台数は、平成28年から緩やかに減少しており令和3年で4,874台となっている。また、1世帯当たりの乗用車保有台数は保有台数と同様に緩やかに減少しており、令和3年で0.87台となっているが、神奈川県令和3年の1世帯当たりの乗用車保有台数は0.689台であり、県の平均よりも高いことから、本町は自家用車を基本としたライフスタイルが浸透していると考えられます。

■自動車保有台数の推移



出典：神奈川県県勢要覧

(5) 運転免許証の返納状況

神奈川県における運転免許証の返納状況をみると、令和元年に大きく増加し、46,159人の返納がありました。以降、返納者数は徐々に減少している状況となっております。

山北町においては令和2年には61人の返納がありましたが、以降は神奈川県同様に減少している状況となります。

■神奈川県の運転免許証返納状況

単位：人

	平成 29 年	平成 29 年	令和元年	令和 2 年	令和 3 年	令和 4 年
神奈川県	32,347	29,544	46,159	43,768	41,593	33,334
山北町	28	35	52	61	52	38

出典：神奈川県松田警察署

(6) 主要施設の分布状況

①公共施設

【町役所（本庁・支所）】

名称	所在地
山北町役場	山北1301-4
清水ふれあいセンター（清水支所併設）	川西688
三保支所	中川921-82

【社会教育・図書館施設】

名称	所在地
教育委員会	山北1301-4
生涯学習センター	山北1301-4
山北児童館	山北121
山北第2児童館	山北3000-3
向原児童館	向原311

【観光・福祉・環境施設】

名称	所在地
さくらの湯	山北1971-2
丹沢森林館薬草園 ※現在休業中	玄倉491-1
河内川ふれあいビレッジ ※現在休業中	湯触322-1
町立中川温泉ぶなの湯	中川645-8
ひだまりの里	神縄438
道の駅「山北」	湯触317
農産物直売加工所「とれたて山ちゃん」	向原1823-1
丹沢湖記念館	神尾田759
西丹沢ビジターセンター	中川867
健康福祉センター	山北1971-2
町観光協会	山北1840-15
子育て支援センター	山北1971-2
社会福祉協議会	向原1379-1
一般社団法人 シルバー人材センター	山北2041
NPO法人KOMNYやまなみ工芸	山北1425-3
ふるさと交流センター	山北1840-15
皆瀬川浄水場	山北3701
足柄西部環境センター	山北3680
環境整備公社（丹沢湖記念館）	神尾田759-2

【消防・警察】

名称	所在地
小田原市消防本部足柄消防署山北出張所	山北2056-1
松田警察署	松田町松田庶子477-1
松田岸警察官駐在所	岸1990-1
松田向原警察官駐在所	向原2074-3
松田共和警察官駐在所	平山342-1
松田清水警察官駐在所	川西652-32
松田三保警察官駐在所	神尾田759
松田丹沢湖警備出張所	神尾田759

【学校】

名称	所在地
川村小学校	山北1002
山北中学校	向原405
県立山北高等学校	向原2370

【スポーツ施設】

名称	所在地
山北町パークゴルフ場	山北3313-4
山北町スポーツ広場（多目的運動場）	山北3139-1

②医療機関（病院・医院・診療所等）

名称	所在地	診療科
おおり医院（山北中央診療所）	山北192	内・呼・消・感染・ア・糖・小・外・皮・在宅・海外
ねもと総合内科クリニック	山北722-32	内・小
飛騨クリニック	向原150	内・循・外・小・皮
山北町立山北診療所	谷ヶ1018-20	内・外・小
いちじま歯科医院	山北711-31	歯
小原歯科医院	山北1761	歯
藤井歯科医院	向原2038	歯・小歯・口腔

③金融機関（銀行・郵便局等）

【銀行・信用金庫・信用組合・JA】

名称	所在地
横浜銀行山北支店	山北1890
さがみ信金山北支店	山北1850
かながわ西湘農協山北支店	山北211
かながわ西湘農協清水支店	川西689

【郵便局】

名称	所在地
山北郵便局	山北191
岸郵便局	岸1326-3
清水郵便局	川西668-14
三保郵便局	中川921-81

④商業施設（スーパー等）

名称	所在地
小田百貨店山北店	岸58-3
コメリハード&グリーン足柄山北店	岸62
まつざわ	山北271-1
石田君三商店	山北2762
石田為吉商店	山北2567
おそうざい屋さん	向原1944
露木勝兵衛商店	山北2799

⑤鉄道駅

名称	所在地
J R 山北駅	山北
J R 東山北駅	向原
J R 谷峨駅	谷ヶ

2. 公共交通の現状

(1) 鉄道

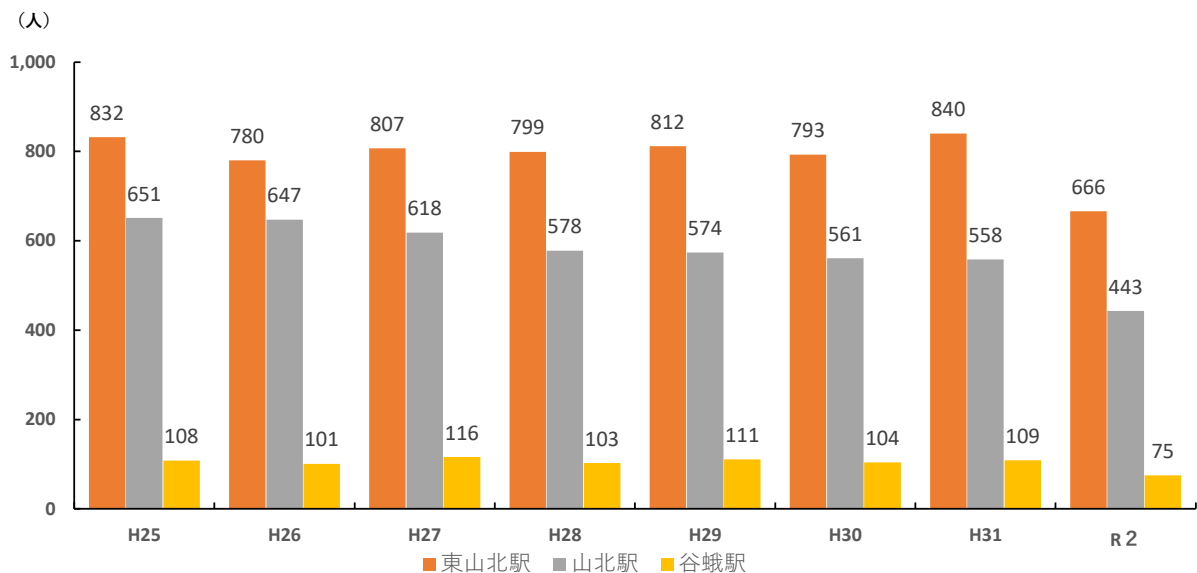
J R御殿場線が町内を東西方向に横断しており、山北駅と東山北駅、谷蛾駅の3駅があります。この3駅は町内と町外を結ぶ交流拠点になっています。国府津方面に山北駅（平休ともに26本）、東山北駅（平休ともに26本）、谷蛾駅（平日25本、休日26本）で、沼津方面に山北駅（平日25本、休日26本）、東山北駅（平休ともに28本）、谷蛾駅（平日23本、休日24本）と上下線で約50本が停車します。

令和2年度における東山北駅の1日の平均乗客数は666人で、山北駅の1日の平均乗客数は443人、谷蛾駅の1日の平均乗客数は75人となっていますが、いずれの駅も乗客数は新型コロナウイルス感染症の影響で前年から減少しています。

■山北駅・東山北駅・谷蛾駅の利用者数の推移

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R 2
東 山 北 駅	832	780	807	799	812	793	840	666
山 北 駅	651	647	618	578	574	561	558	443
谷 蛾 駅	108	101	116	103	111	104	109	75

出典：山北町統計書



(2) バス

①路線状況

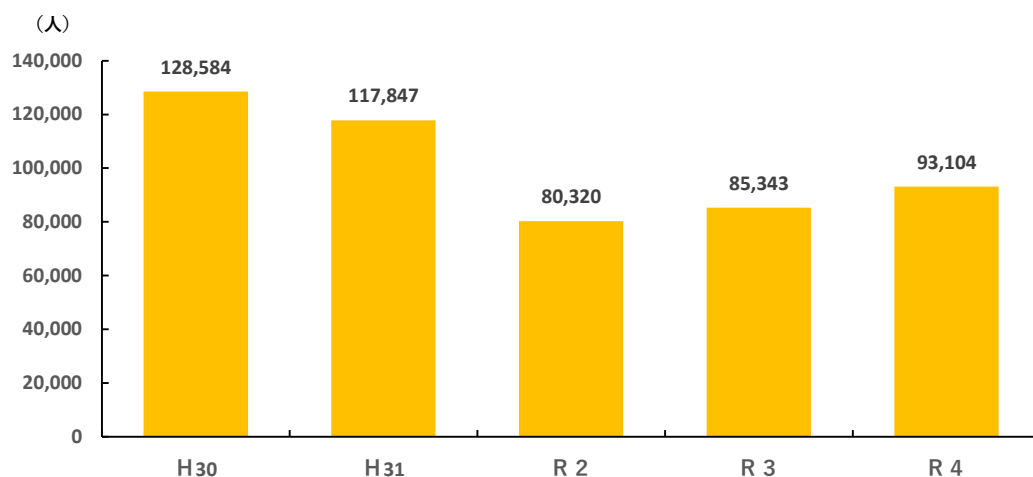
山北町が民間事業者（富士急湘南バス株式会社）に委託しているコミュニティバス（山北町内循環バス）と民間事業者（富士急湘南バス株式会社）が運行する路線バスがあり、山北駅を起点として、町内各地域を結ぶ役割を果たしています。

また、富士急湘南バスが運行している「新松田西丹沢線（新松田駅～西丹沢ビジターセンター）」は地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する運行系統である補助系統に該当し、松田町から山北町に跨って運行している「新松田西丹沢線」は、両町の各拠点を連絡し、通勤通学、買物、通院等の日常生活行動だけでなく、観光・レジャーなど多様な目的での移動を担っております。起終点の小田急線新松田駅から、ＪＲ御殿場線の東山北駅、山北駅、谷峨駅とも連絡しているため、公共交通ネットワークを構築する上で重要な役割を担っております。一方で、自治体や事業者の運営努力だけでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持事業により確保・維持する必要がある路線となります。

②利用者数

新型コロナウイルス感染症の発生した令和２年に利用者数が大きく減少しました。以降、徐々に回復していますが、平成30年から平成31年にかけて利用者が減少していることもあり、コロナ禍以前の利用者数まで回復するかは不透明である。現状は平成30年の利用者数の約70%の利用者数となっている。

■路線バス・コミュニティバス利用者数の推移



出典：富士急湘南バス株式会社

※路線バスに関しては、10月から翌年9月を事業年度とするため、平成30年は平成29年10月から平成30年9月まで、令和4年は令和3年10月から令和4年9月までを指しています。

③不採算路線の赤字額、補助金支出額

新松田西丹沢線の赤字額は平成30年と比較すると減少しており、令和4年度では1,135万円となっています。これに対して国と県より補助金が交付されており、令和4年度では約1,381万円を補助しています。

■新松田西丹沢線の赤字額と補助金支出額の推移

単位：円

	H30	H31	R2	R3	R4
赤 字 額	18,164,000	15,663,000	16,602,000	16,771,000	11,350,000
補 助 金 支 出 額	11,228,000	13,950,000	12,478,000	13,840,000	13,808,000

出典：富士急湘南バス株式会社

(3) 民間タクシー

タクシー事業は、町内において2つの事業者（中川ハイヤー有限会社、松田合同自動車株式会社）が実施しております。

山北町内のみのデータはないため参考ではございますが、令和4年の小田原交通圏内における輸送人員は264.6万人となっています。平成29年と比べると輸送回数・輸送人員・運送収入ともに約70%程度まで減少している状況となります。しかし、タクシーは、鉄道や路線バスのような大量輸送機関にはない機動力を持ち、利用者一人一人のニーズへ対応し、自宅等から目的地までをつなぐ公共交通として重要な役割を担っており、福祉タクシー等、交通不便地域に住む高齢者(70歳以上)の足としても必要な交通手段の1つである。

■小田原交通圏内タクシー事業者の輸送実績の推移

	H29	H30	R1	R2	R3	R4
輸送回数（回）	2,441,225	2,323,645	2,123,122	1,274,638	1,398,530	1,730,822
輸送人員（人）	3,552,262	3,373,392	3,082,646	1,657,793	2,020,418	2,646,073
運送収入（千円）	4,295,812	4,157,249	3,883,476	2,093,378	2,341,933	3,141,623

出典：一般社団法人神奈川県タクシー協会

(4) 公共交通以外の移動手段

本町には、福祉バスやスクールバスなど、公共交通以外の移動手段が複数存在しています。公共交通以外の移動手段には、既存の公共交通ではカバーできないニーズを補完する役割が求められます。

しかし、運転者の担い手不足であったり、実施に掛かる費用を町の補助金で賄っているため町の財政負担も大きく、公共交通不便地域に住んでいる方にとっては必要不可欠な移動手段ではあるが、持続していくための問題もある。

また、令和3年と令和4年には清水・三保地区においてデマンドタクシーの実証実験も実施しており、実証実験実施後のアンケートにおいて早期に導入して欲しいというニーズが高まっている。

■町内の公共交通以外の移動手段

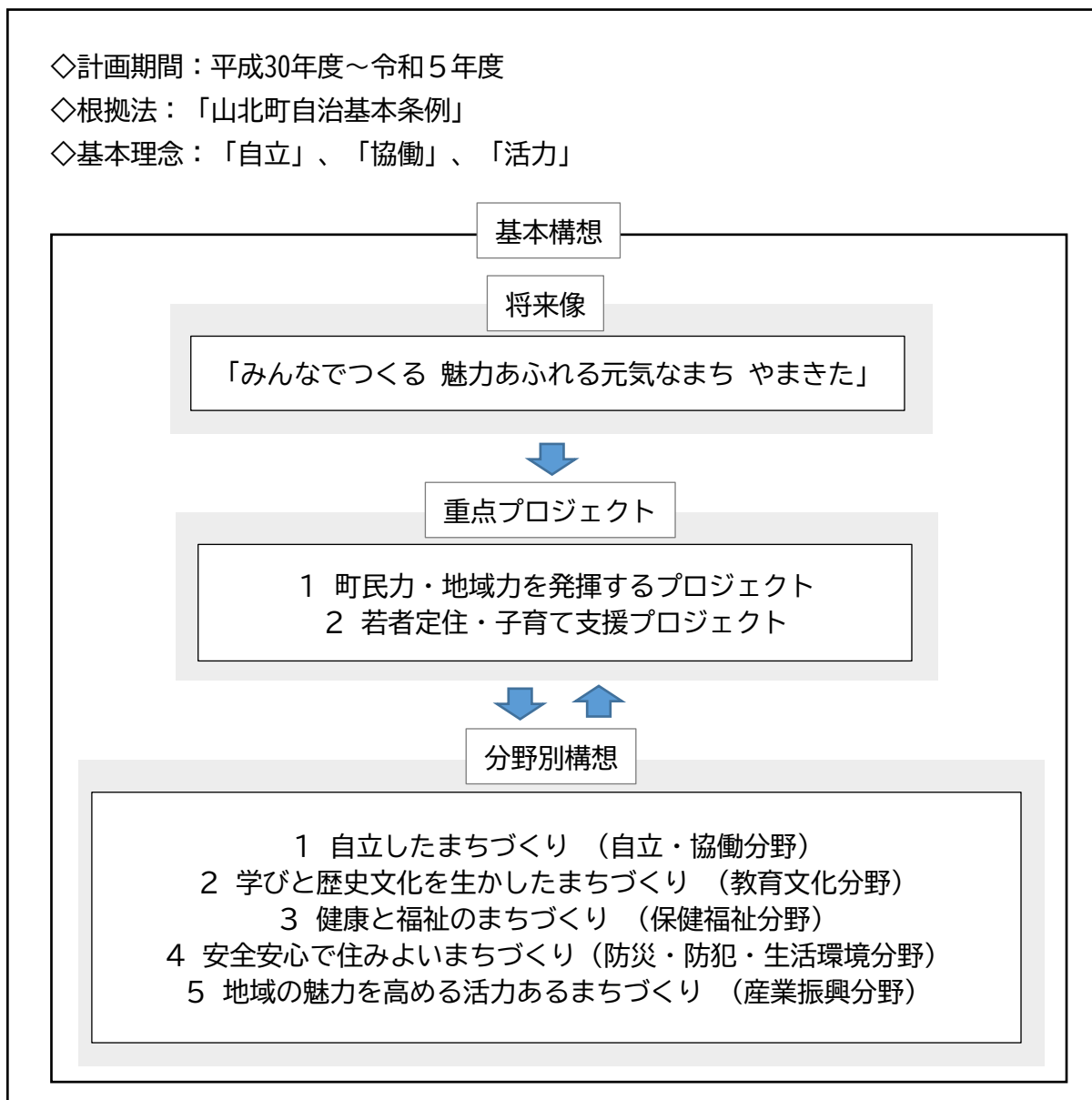
移動手段	概要	事業実施者
共和福祉バス	通勤、通学手段の確保が必要と考えた共和地区住民自らが、平成16年度から地区住民限定で試行運行を開始し、平成23年からは本格運行を実施。	共和地区福祉バス運営会
小中学校スクールバス	平成26年度の中学校、翌年度の小学校の統合によって、清水・三保地区の児童、生徒の通学手段として運行を開始。	山北町
社協おでかけ号	公共交通機関の利用が困難な高齢者・障がい者の外出時の利便を図るため、平成12年から町社協に委託して実施。	山北町社会福祉協議会

3. 主な関連計画の整理

(1) 山北町総合計画

本格的な地方分権社会の到来を迎え、社会情勢の変化の速度がこれまで以上に速くなることが予想され、これまでのまちづくりは行政が主体となって進めてきましたが、行政や議会だけでなく、これまで行政が担ってきた仕事の一部を町民が自ら実施するなど、町民との協働によるまちづくりを更に進めていく必要があります。山北町では、こうした社会情勢に対応するため、山北町自治基本条例を制定し、平成25年4月より施行しています。この中で、町民、行政及び議会が対等な立場で参加する協働によるまちづくりを求め、まちづくりを中長期的な視点で捉え、総合的かつ計画的な行政運営を図るため、総合計画を策定しなければならない旨を規定しています。

このような状況のもと、平成26年度から第5次総合計画がスタートしています。平成30年度に前期基本計画が終了することから、平成31年度（2019年度）から5か年を計画期間とする後期基本計画を策定しました。



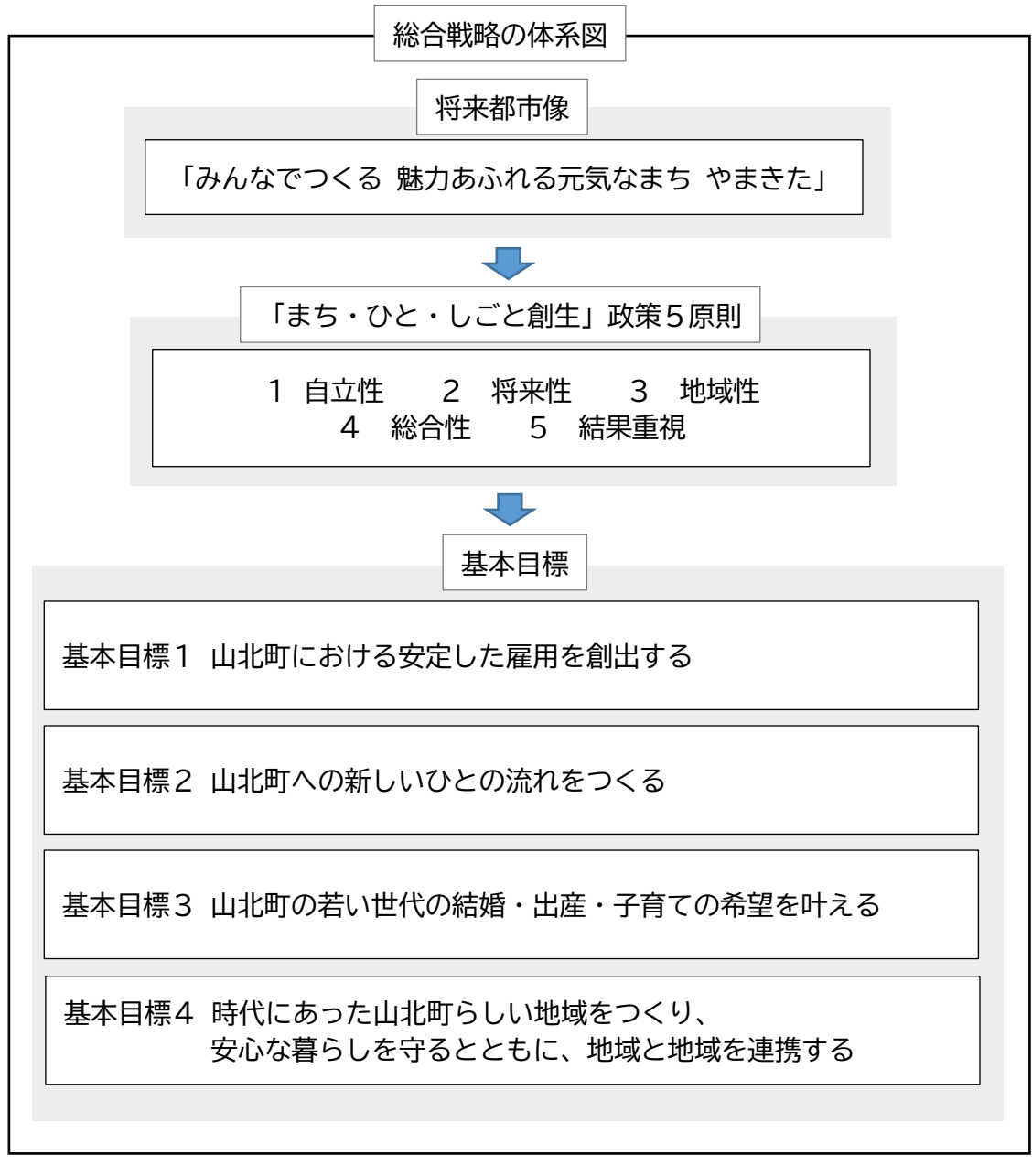
（２）山北町人口ビジョン・総合戦略

国において令和元年12月に「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、地方創生のより一層の充実・強化に取り組む方針を示したことから、国や県の人口ビジョンや総合戦略を勘案し、令和2年度から令和6年度までの5年間を計画期間とする「山北町第2期人口ビジョン・総合戦略」を令和2年3月に策定しました。

◇計画期間：令和2年度～令和6年度

◇根拠法：「まち・ひと・しごと創生法」

◇基本的視点：①子育て世代や若者を中心とした生産年齢人口の流入、定住の促進
②若い世代の就労・子育てなどの希望を叶える生活環境基盤の整備
③山北町の強みを生かした特徴的な取組みの推進



(3) 山北町都市計画マスタープラン

都市計画マスタープランとは、都市計画やまちづくりを進めるための指針とされ、まちづくりの将来像を描くもので、地域の課題を解決するために土地利用を誘導したり、都市施設を整備していく方針を示すものです。「山北町都市計画マスタープラン」は、「山北町第5次総合計画」や「都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」等と整合を図りながら、「山北町第3次土地利用計画」などの個別計画と連携し、総合的かつ計画的にまちづくりを進め、今後の法定都市計画決定、都市計画事業の推進等における指針となるものです。

計画を実現し、より良いまちづくりを進めていくためには、施策の推進はもちろんのこと、これからのまちづくりの主体となる町民、事業者や関係団体などと行政が適切な役割分担のもとに「協働のまちづくり」を推進する必要があります。本町ではまちづくりの基本方針として「山北町自治基本条例」を定めていることから、本条例の趣旨に沿い、町民参画のもとで協働のまちづくりを進めていきます。

◇計画期間：令和2年度～令和12年度

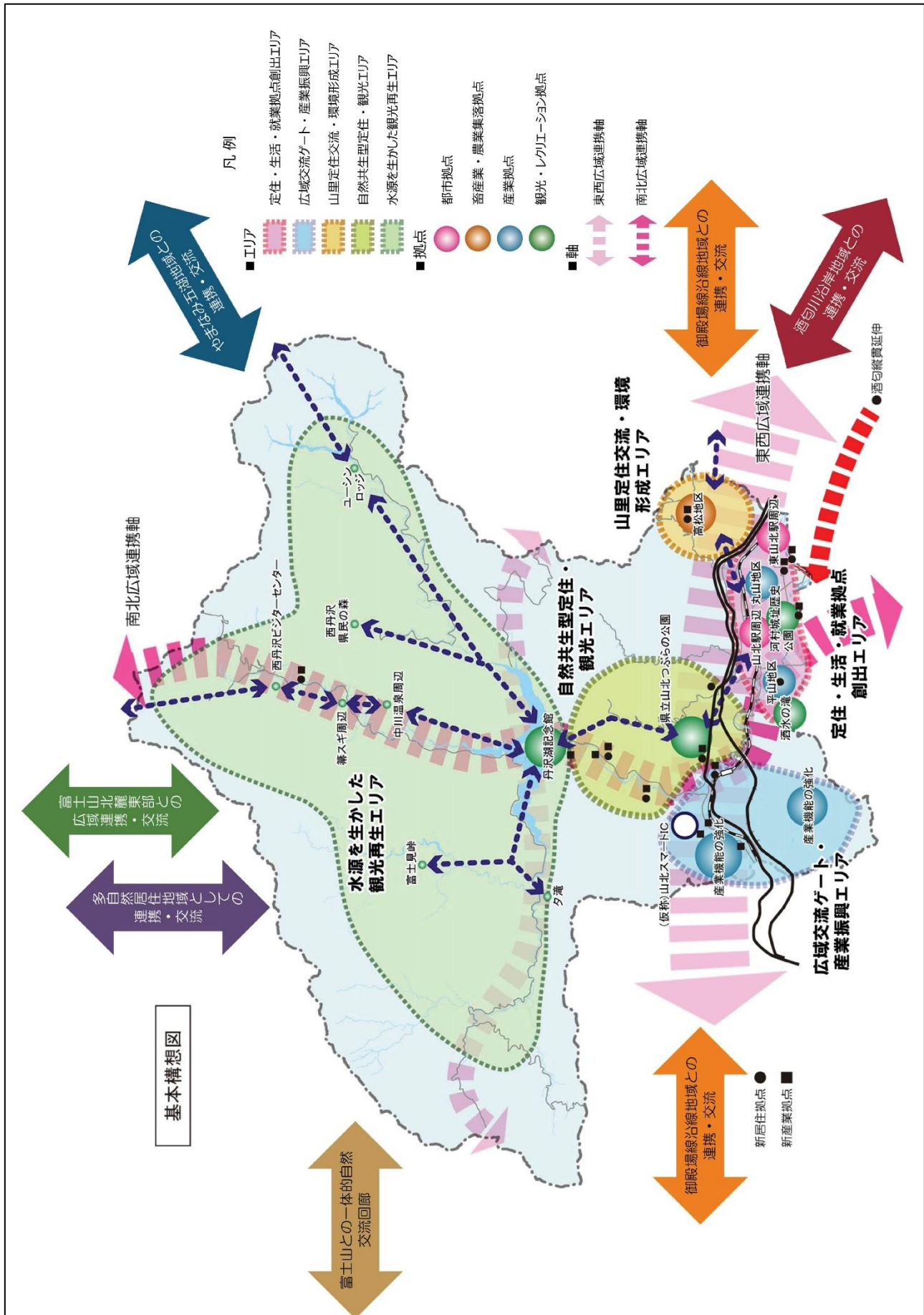
◇根拠法：「都市計画法」

◇将来都市像：豊かな自然と歴史文化を生かした にぎわい・交流のまち やまきた

◇まちづくりの目標

- 目標1 持続的な発展に向けて地域が自立し、豊かな自然環境と良好な住宅地が共生する「自立と共生のまちづくり」を進めます
- 目標2 暮らしの質を優先し、身近な環境を重視した「安全・安心のまちづくり」を進め、結果的に、地震・浸水・土砂災害・大規模な家事災害などの災害に強いまちづくりを進めます
- 目標3 町民がお互いに協力し、支え、助け合いながら暮らし、交流を育む居場所のある「ふれあいと交流のあるまちづくり」を進めます
- 目標4 地域の潜在的魅力を生かし、多様な連携・ネットワークによる「連携・創造の活力あるまちづくり」を進めます
- 目標5 地域の産業活動や定住対策を重視した「個性豊かでのにぎわいのあるまちづくり」を進めます

基本構想図



(4) 山北町地域福祉計画

本町では、これまで第2期山北町地域福祉計画、山北町社会福祉協議会では第4次山北町地域福祉活動計画に沿って地域福祉の推進に取り組んできましたが、これらの計画が2018年度（平成30年度）に最終年度を迎えたことにより、計画を見直す必要が出てきました。その見直しに際し、国が新たに掲げた地域共生社会の実現という目標に向けてより実効性の高い計画とするために、地域福祉計画と地域福祉活動計画を一体的に策定することとしました。さらに、2016年（平成28年）の自殺対策基本法の改正により策定が義務付けられた市町村自殺対策計画も併せて策定することにより、地域福祉の推進による自殺者の減少を図ることとしました。本計画は、この3計画「第3期山北町地域福祉計画」、「第5次山北町社会福祉協議会地域福祉活動計画」、「第1次山北町こころの健康対策事業計画」を一体的に策定したものであり、今後は現行の施策・事業の見直しにとどまらない、自助・互助・共助・公助の適切なあり方の再構築を目指していきます。

◇計画期間：平成31年度～令和5年度

◇根拠法：社会福祉法

◇基本理念：地域ぐるみで支え合う、健康と福祉のまちづくり

◇基本目標：基本目標1 住民参加のまちづくり

基本目標2 福祉サービスの充実と提供体制の整備

基本目標3 豊かに暮らせる生活支援システムの整備

基本目標4 安心して暮らせるまちづくり

基本目標4（3）住みやすい生活環境の整備

- ・新設及び改修時に、誰もが制約を受けずに行動できるよう、歩行空間や公共交通機関、公共施設などでさまざまな人が利用しやすいよう利用者の視点に立ったユニバーサルデザインを推進します。
- ・住民の生活利便性向上のため、町内循環バスの運行および循環バス運行地区高齢者に回数券の助成をしたり、山間部に居住する高齢者にタクシー助成を行ったりするなど、交通不便地域に住む高齢者に対する支援をするとともに、社会福祉協議会による「お出かけ号」の運行をするなど、町独自の交通サービスの充実を図ります。また、高齢者の運転操作ミスによる事故が多発している現状を踏まえ、これらの移動支援の充実を図ることで運転免許証の自主返納を促します。
- ・新設及び改修時に、ユニバーサルデザインの視点に立った道路の計画的な整備を進めます。
- ・幅の広い歩道、歩道の段差解消、点字ブロックの敷設、スロープの設置など、新設及び改修時に、利便性や安全性、景観等に十分に配慮した歩行空間の整備に努めます。また、障がい者専用の駐車場の整備や歩行空間の障害物の除去に努めます。

4. 公共交通の利用実態把握

(1) 町民アンケート調査

I 調査概要

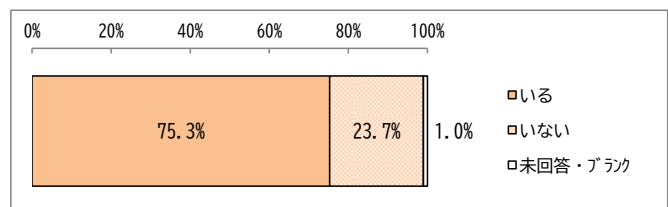
- 1 調査対象：山北町にお住まいの16歳以上の町民
- 2 調査方法：郵送配付・郵送回収
- 3 調査期間：令和5年11月6日～11月30日
- 4 回収状況：配布1,500件 有効回収792件（有効回収率52.8%）

Ⅱ 調査結果

あなたの身近に送迎を頼める人はいますか。

問1 あなたの身近に送迎を頼める人はいますか。

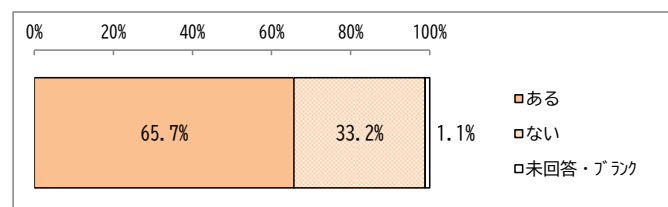
	回答数	%
1 いる	596	75.3%
2 いない	188	23.7%
3 未回答・ブランク	8	1.0%
総計	792	100.0%



家族、友人などを送迎することはありますか。

問2 家族、友人などを送迎することはありますか。

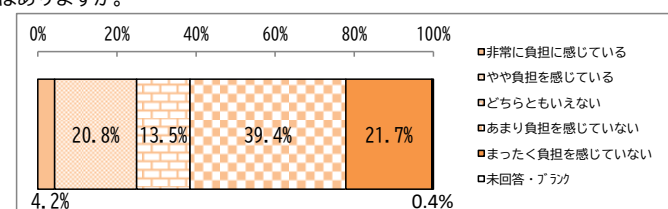
	回答数	%
1 ある	520	65.7%
2 ない	263	33.2%
3 未回答・ブランク	9	1.1%
総計	792	100.0%



家族、友人などを送迎することを負担に感じることはありますか。

問3 家族、友人などを送迎することを負担に感じることはありますか。

	回答数	%
1 非常に負担に感じている	22	4.2%
2 やや負担に感じている	108	20.8%
3 どちらともいえない	70	13.5%
4 あまり負担を感じていない	205	39.4%
5 まったく負担を感じていない	113	21.7%
6 未回答・ブランク	2	0.4%
総計	520	100.0%

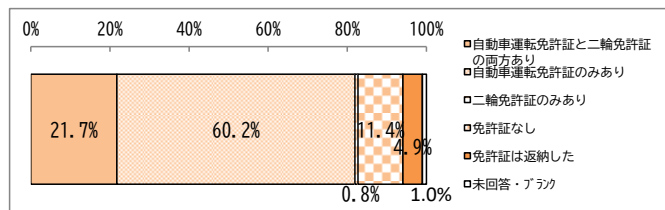


送迎をすることがある方のうち、25%の方は負担と感じている。

運転免許証を所有していますか。

問4 運転免許証を所有していますか。

	回答数	%
1 自動車運転免許証と二輪免許証の両方あり	172	21.7%
2 自動車運転免許証のみあり	477	60.2%
3 二輪免許証のみあり	6	0.8%
4 免許証なし	90	11.4%
5 免許証は返納した	39	4.9%
6 未回答・blank	8	1.0%
総計	792	100.0%

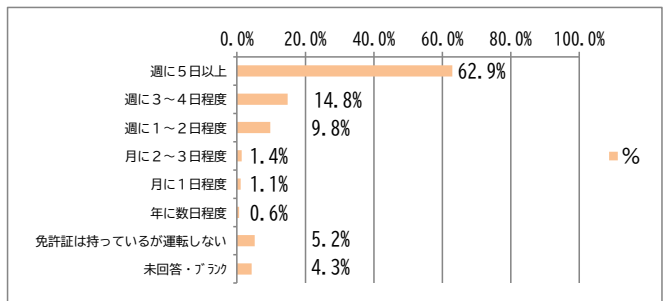


82.7%の方が現在も運転免許証を所有している。

どのくらいの頻度で車・バイクを利用していますか。

問5 どのくらいの頻度で車・バイクを利用していますか。

	回答数	%
1 週に5日以上	412	62.9%
2 週に3～4日程度	97	14.8%
3 週に1～2日程度	64	9.8%
4 月に2～3日程度	9	1.4%
5 月に1日程度	7	1.1%
6 年に数日程度	4	0.6%
7 免許証は持っているが運転しない	34	5.2%
8 未回答・blank	28	4.3%
総計	655	100.0%

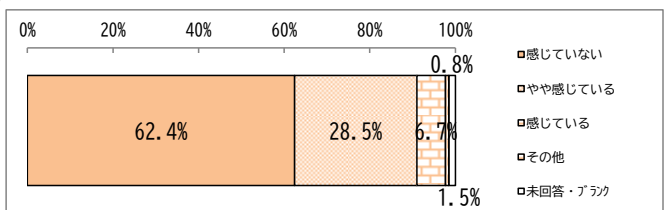


毎週利用されている方が87.5%と車・バイクは移動に欠かせない町民の足となっている。

自分で運転することについて不安を感じていますか。

問6 自分で運転することについて不安を感じていますか。

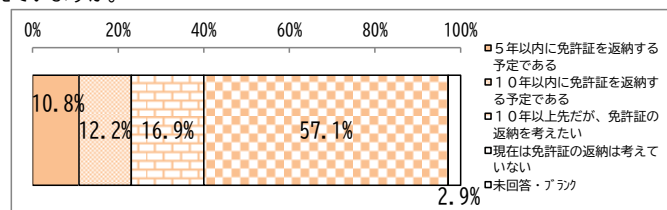
	回答数	%
1 感じていない	409	62.4%
2 やや感じている	187	28.5%
3 感じている	44	6.7%
4 その他	5	0.8%
5 未回答・blank	10	1.5%
総計	655	100.0%



運転免許証の返納について、将来的にどのように考えていますか。

問7 運転免許証の返納について、将来的にどのように考えていますか。

	回答数	%
1 5年以内に免許証を返納する予定である	71	10.8%
2 10年以内に免許証を返納する予定である	80	12.2%
3 10年以上先だが、免許証の返納を考えたい	111	16.9%
4 現在は免許証の返納は考えていない	374	57.1%
5 未回答・blank	19	2.9%
総計	655	100.0%

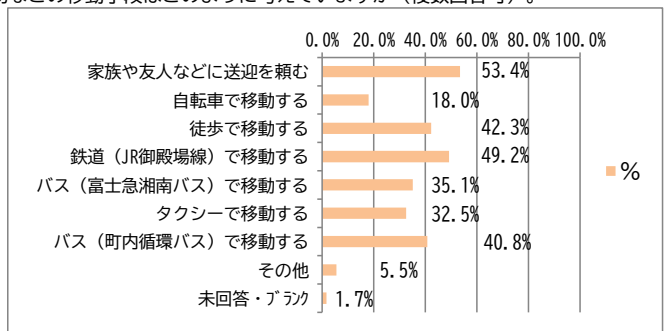


約6割の方が運転免許証の返納を考えていない。

将来的に免許証を返納した場合、日常の通院や買い物などの移動手段はどのように考えていますか（複数回答可）。

問8 将来的に免許証を返納した場合、日常の通院や買い物などの移動手段はどのように考えていますか（複数回答可）。

	回答数	%
1 家族や友人などに送迎を頼む	350	53.4%
2 自転車で移動する	118	18.0%
3 徒歩で移動する	277	42.3%
4 鉄道（JR御殿場線）で移動する	322	49.2%
5 バス（富士急湘南バス）で移動する	230	35.1%
6 タクシーで移動する	213	32.5%
7 バス（町内循環バス）で移動する	267	40.8%
8 その他	36	5.5%
9 未回答・blank	11	1.7%
総計	655	-



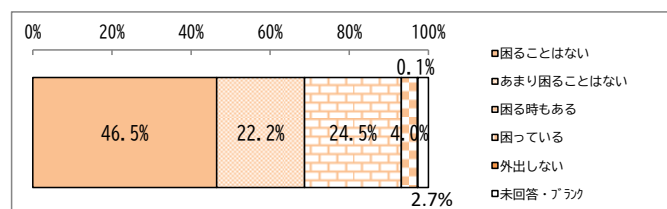
※複数回答可であるため%の合計は100%になりません

現在の移動はほぼ車かバイクであるが、返納後は鉄道・バス・タクシーといった公共交通機関での移動を考えている方が約4割いる。またその他意見として、公共交通が不便であるため、返納後は転居するという意見が複数見受けられた。

現在、外出時の移動の際に困ることはありますか。

問9 現在、外出時の移動の際に困ることはありますか。

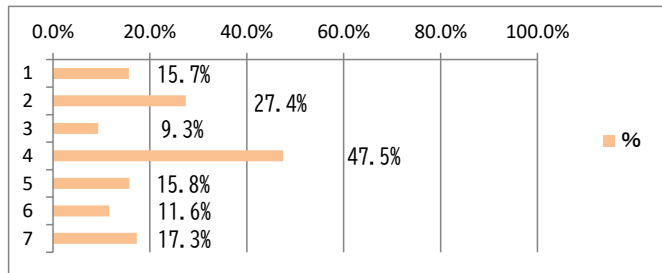
	回答数	%
1 困ることはない	368	46.5%
2 あまり困ることはない	176	22.2%
3 困る時もある	194	24.5%
4 困っている	32	4.0%
5 外出しない	1	0.1%
6 未回答・blank	21	2.7%
総計	792	100.0%



外出時の移動の際に困っている理由、また、困ってはいなくても不満に感じていることを教えてください（複数回答可）。

問10 外出時の移動の際に困っている理由、また、困ってはいなくても不満に感じていることを教えてください（複数回答可）。

	回答数	%
1 移動手段がない	124	15.7%
2 移動手段にお金がかかる	217	27.4%
3 体力的につらい	74	9.3%
4 公共交通は移動するのに時間がかかる	376	47.5%
5 送迎をお願いできる人（家族や友人）がいない、もしくはお願いするのが心苦しい	125	15.8%
6 その他	92	11.6%
7 未回答・ブランク	137	17.3%
総計	792	-



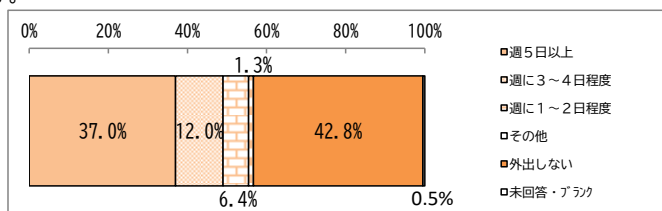
※複数回答可であるため%の合計は100%になりません

外出するのに、公共交通は時間が掛かると約半数の方は不満に思っている。また、その他意見として、JR御殿場線やバスの本数が少ない、JRとバスの接続が悪いと言った公共交通に関する不満が散見された。

あなたは普段、通勤・通学でどのくらい外出しますか。

問11 あなたは普段、通勤・通学でどのくらい外出しますか。

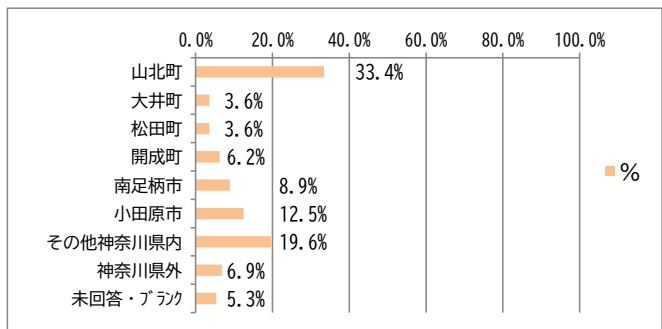
	回答数	%
1 週5日以上	293	37.0%
2 週に3～4日程度	95	12.0%
3 週に1～2日程度	51	6.4%
4 その他	10	1.3%
5 外出しない	339	42.8%
6 未回答・ブランク	4	0.5%
総計	792	100.0%



通勤・通学先はどちらですか。

問12 通勤・通学先はどちらですか。

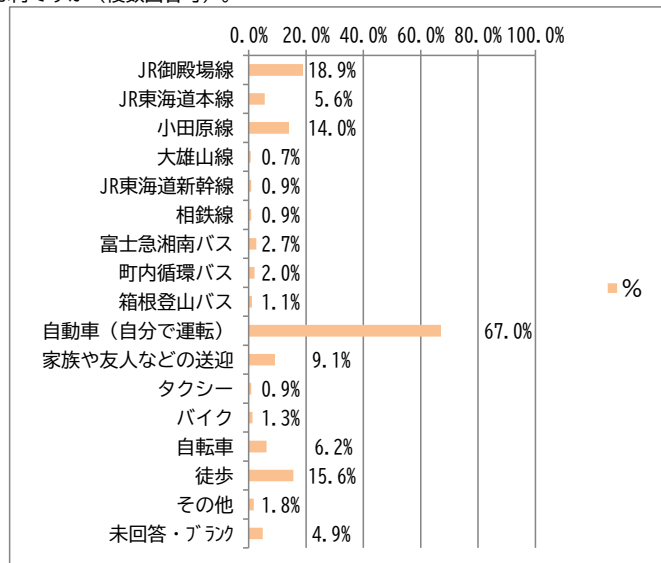
	回答数	%
1 山北町	150	33.4%
2 大井町	16	3.6%
3 松田町	16	3.6%
4 開成町	28	6.2%
5 南足柄市	40	8.9%
6 小田原市	56	12.5%
7 その他神奈川県内	88	19.6%
8 神奈川県外	31	6.9%
9 未回答・ブランク	24	5.3%
総計	449	100.0%



通勤・通学で普段（いつも）利用している交通手段は何ですか
（複数回答可）。

問13 通勤・通学で普段（いつも）利用している交通手段は何ですか（複数回答可）。

	回答数	%
1 JR御殿場線	85	18.9%
2 JR東海道本線	25	5.6%
3 小田原線	63	14.0%
4 大雄山線	3	0.7%
5 JR東海道新幹線	4	0.9%
6 相鉄線	4	0.9%
7 富士急湘南バス	12	2.7%
8 町内循環バス	9	2.0%
9 箱根登山バス	5	1.1%
10 自動車（自分で運転）	301	67.0%
11 家族や友人などの送迎	41	9.1%
12 タクシー	4	0.9%
13 バイク	6	1.3%
14 自転車	28	6.2%
15 徒歩	70	15.6%
16 その他	8	1.8%
17 未回答・ブランク	22	4.9%
総計	449	-



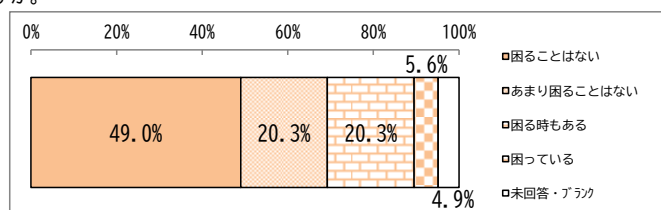
※複数回答可であるため%の合計は100%になりません

送迎も含めると約8割の方が車での移動と通勤・通学における移動手段の大半は車が使用されており、次いでJR御殿場線が約2割となっている。

現在、通勤・通学での移動の際に困ることはありますか。

問14 現在、通勤・通学での移動の際に困ることはありますか。

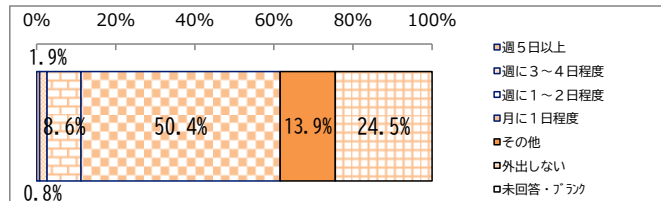
	回答数	%
1 困ることはない	220	49.0%
2 あまり困ることはない	91	20.3%
3 困る時もある	91	20.3%
4 困っている	25	5.6%
5 未回答・ブランク	22	4.9%
総計	449	100.0%



あなたは普段、通院でどのくらい外出しますか。

問15 あなたは普段、通院でどのくらい外出しますか。

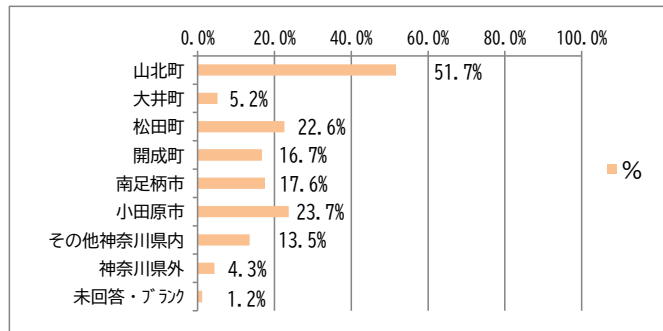
	回答数	%
1 週5日以上	6	0.8%
2 週に3～4日程度	15	1.9%
3 週に1～2日程度	68	8.6%
4 月に1日程度	399	50.4%
5 その他	110	13.9%
6 外出しない	194	24.5%
7 未回答・ブランク	0	0.0%
総計	792	100.0%



通院先はどちらですか（複数回答可）。

問16 通院先はどちらですか（複数回答可）。

	回答数	%
1 山北町	309	51.7%
2 大井町	31	5.2%
3 松田町	135	22.6%
4 開成町	100	16.7%
5 南足柄市	105	17.6%
6 小田原市	142	23.7%
7 その他神奈川県内	81	13.5%
8 神奈川県外	26	4.3%
9 未回答・ブランク	7	1.2%
総計	598	-

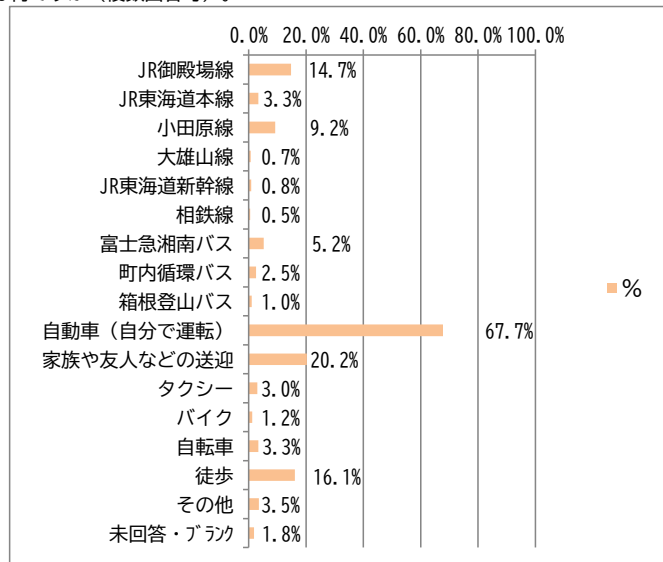


※複数回答可であるため%の合計は100%になりません

通院する際、普段（いつも）利用している交通手段は何ですか（複数回答可）。

問17 通院する際、普段（いつも）利用している交通手段は何ですか（複数回答可）。

	回答数	%
1 JR御殿場線	88	14.7%
2 JR東海道本線	20	3.3%
3 小田原線	55	9.2%
4 大雄山線	4	0.7%
5 JR東海道新幹線	5	0.8%
6 相鉄線	3	0.5%
7 富士急湘南バス	31	5.2%
8 町内循環バス	15	2.5%
9 箱根登山バス	6	1.0%
10 自動車（自分で運転）	405	67.7%
11 家族や友人などの送迎	121	20.2%
12 タクシー	18	3.0%
13 バイク	7	1.2%
14 自転車	20	3.3%
15 徒歩	96	16.1%
16 その他	21	3.5%
17 未回答・ブランク	11	1.8%
総計	598	-



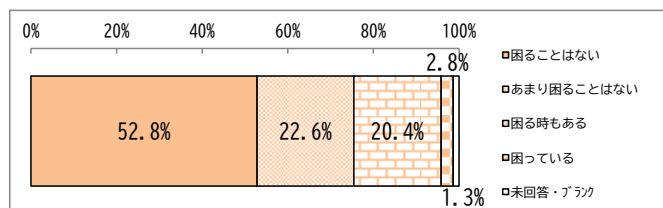
※複数回答可であるため%の合計は100%になりません

送迎も含めると約9割の方が車での移動と通院における移動手段の大半は車が使用されている。

現在、通院での移動の際に困ることはありますか。

問18 現在、通院での移動の際に困ることはありますか。

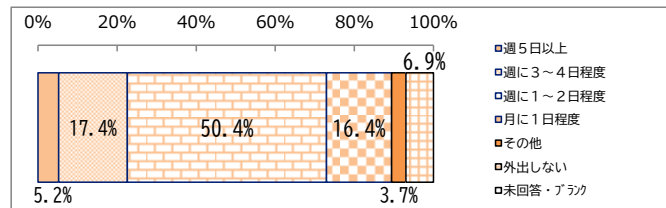
	回答数	%
1 困ることはない	316	52.8%
2 あまり困ることはない	135	22.6%
3 困る時もある	122	20.4%
4 困っている	17	2.8%
5 未回答・ブランク	8	1.3%
総計	598	100.0%



山北町内で買い物する頻度を教えてください。

問19-1 山北町内で買い物する頻度を教えてください。

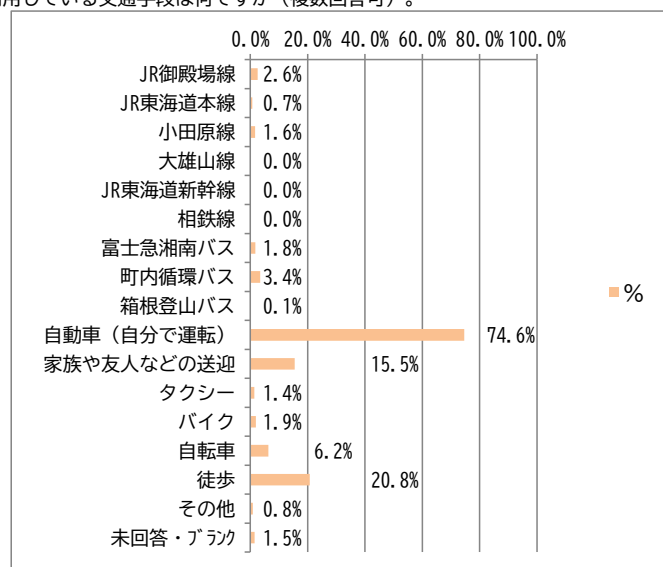
	回答数	%
1 週5日以上	41	5.2%
2 週に3～4日程度	138	17.4%
3 週に1～2日程度	399	50.4%
4 月に1日程度	130	16.4%
5 その他	29	3.7%
6 外出しない	55	6.9%
7 未回答・ブランク	0	0.0%
総計	792	100.0%



町内の買い物先へ移動する際、普段（いつも）利用している交通手段は何か（複数回答可）。

問19-2 町内の買い物先へ移動する際、普段（いつも）利用している交通手段は何か（複数回答可）。

	回答数	%
1 JR御殿場線	19	2.6%
2 JR東海道本線	5	0.7%
3 小田原線	12	1.6%
4 大雄山線	0	0.0%
5 JR東海道新幹線	0	0.0%
6 相鉄線	0	0.0%
7 富士急湘南バス	13	1.8%
8 町内循環バス	25	3.4%
9 箱根登山バス	1	0.1%
10 自動車（自分で運転）	550	74.6%
11 家族や友人などの送迎	114	15.5%
12 タクシー	10	1.4%
13 バイク	14	1.9%
14 自転車	46	6.2%
15 徒歩	153	20.8%
16 その他	6	0.8%
17 未回答・ブランク	11	1.5%
総計	737	-



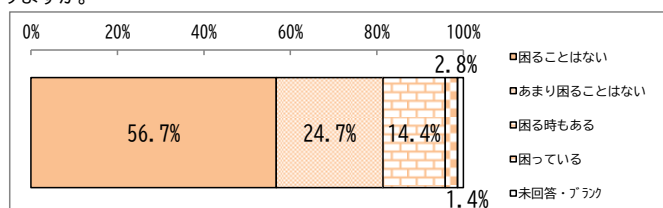
※複数回答可であるため%の合計は100%になりません

送迎も含めると約9割の方が車での移動と町内の買い物における移動手段の大半は車が使用されており、公共交通はほぼ利用されていない。

現在、町内の買い物での移動の際に困ることはありますか。

問19-3 現在、町内の買い物での移動の際に困ることはありますか。

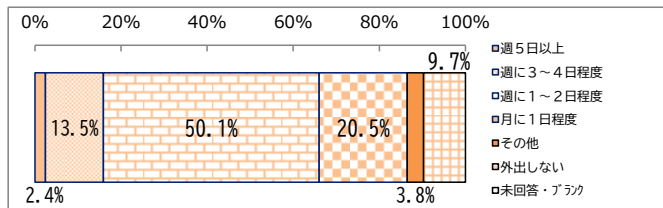
	回答数	%
1 困ることはない	418	56.7%
2 あまり困ることはない	182	24.7%
3 困る時もある	106	14.4%
4 困っている	21	2.8%
5 未回答・ブランク	10	1.4%
総計	737	100.0%



近隣の市町で買い物する頻度を教えてください。

問19-4 近隣の市町で買い物する頻度を教えてください。

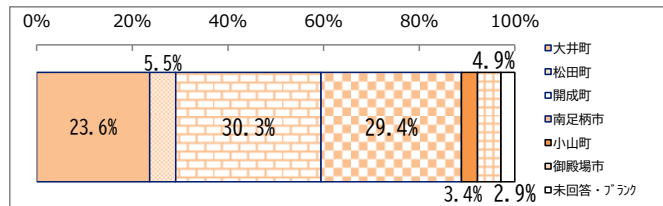
	回答数	%
1 週5日以上	19	2.4%
2 週に3～4日程度	107	13.5%
3 週に1～2日程度	397	50.1%
4 月に1日程度	162	20.5%
5 その他	30	3.8%
6 外出しない	77	9.7%
7 未回答・ブランク	0	0.0%
総計	792	100.0%



主に買い物をする近隣市町はどこですか。

問19-5 主に買い物をする近隣市町はどこですか。

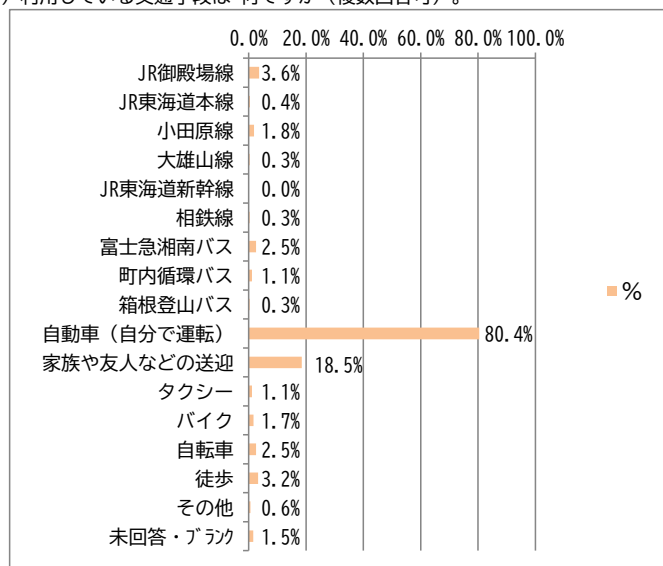
	回答数	%
1 大井町	169	23.6%
2 松田町	39	5.5%
3 開成町	217	30.3%
4 南足柄市	210	29.4%
5 小山町	24	3.4%
6 御殿場市	35	4.9%
7 未回答・ブランク	21	2.9%
総計	715	100.0%



近隣市町の買い物先へ移動する際、普段（いつも）利用している交通手段は 何ですか（複数回答可）。

問19-6 近隣市町の買い物先へ移動する際、普段（いつも）利用している交通手段は 何ですか（複数回答可）。

	回答数	%
1 JR御殿場線	26	3.6%
2 JR東海道本線	3	0.4%
3 小田原線	13	1.8%
4 大雄山線	2	0.3%
5 JR東海道新幹線	0	0.0%
6 相鉄線	2	0.3%
7 富士急湘南バス	18	2.5%
8 町内循環バス	8	1.1%
9 箱根登山バス	2	0.3%
10 自動車（自分で運転）	575	80.4%
11 家族や友人などの送迎	132	18.5%
12 タクシー	8	1.1%
13 バイク	12	1.7%
14 自転車	18	2.5%
15 徒歩	23	3.2%
16 その他	4	0.6%
17 未回答・ブランク	11	1.5%
総計	715	-



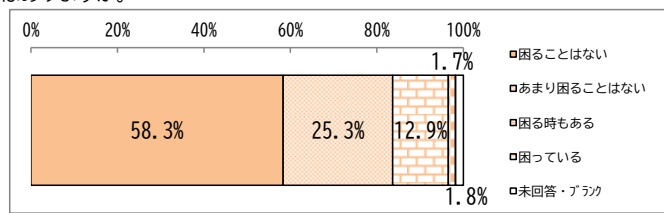
※複数回答可であるため%の合計は100%になりません

送迎も含めるとほぼ100%の方が車での移動と近隣市町の買い物における移動手段の大半は車が使用されており、町内での買い物同様に公共交通の利用はほぼない。

現在、近隣市町の買い物での移動の際に困ることはありますか。

問19-7 現在、近隣市町の買い物での移動の際に困ることはありますか。

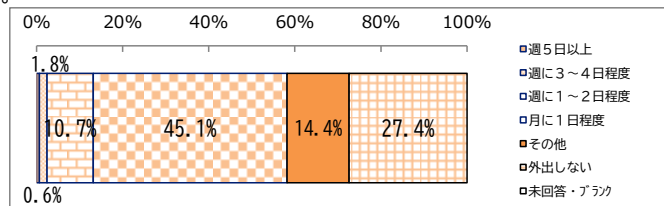
	回答数	%
1 困ることはない	417	58.3%
2 あまり困ることはない	181	25.3%
3 困る時もある	92	12.9%
4 困っている	12	1.7%
5 未回答・ブランク	13	1.8%
総計	715	100.0%



小田原市内へ買い物に行く頻度を教えてください。

問19-8 小田原市内へ買い物に行く頻度を教えてください。

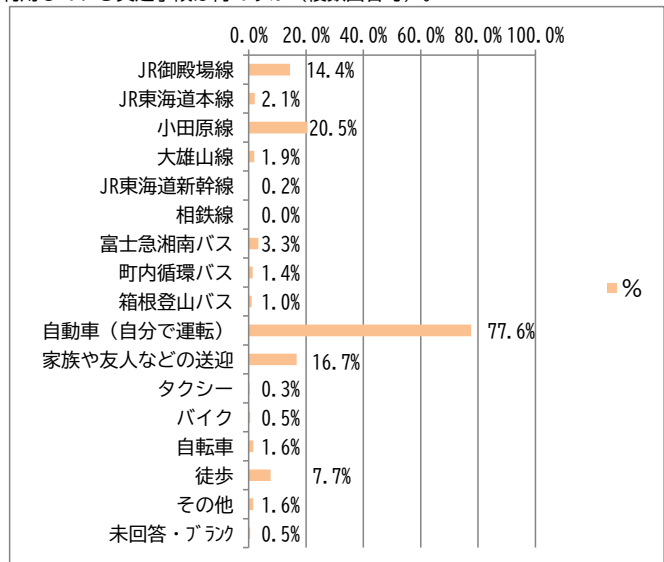
	回答数	%
1 週5日以上	5	0.6%
2 週に3～4日程度	14	1.8%
3 週に1～2日程度	85	10.7%
4 月に1日程度	357	45.1%
5 その他	114	14.4%
6 外出しない	217	27.4%
7 未回答・ブランク	0	0.0%
総計	792	100.0%



小田原市へ買い物で移動する際、普段（いつも）利用している交通手段は何ですか（複数回答可）。

問19-9 小田原市へ買い物で移動する際、普段（いつも）利用している交通手段は何ですか（複数回答可）。

	回答数	%
1 JR御殿場線	83	14.4%
2 JR東海道本線	12	2.1%
3 小田原線	118	20.5%
4 大雄山線	11	1.9%
5 JR東海道新幹線	1	0.2%
6 相鉄線	0	0.0%
7 富士急湘南バス	19	3.3%
8 町内循環バス	8	1.4%
9 箱根登山バス	6	1.0%
10 自動車（自分で運転）	446	77.6%
11 家族や友人などの送迎	96	16.7%
12 タクシー	2	0.3%
13 バイク	3	0.5%
14 自転車	9	1.6%
15 徒歩	44	7.7%
16 その他	9	1.6%
17 未回答・ブランク	3	0.5%
総計	575	-



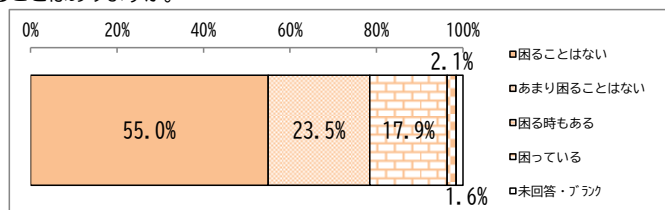
※複数回答可であるため%の合計は100%になりません

送迎も含めるとほぼ100%の方が車での移動と小田原市での買い物における移動手段の大半は車が使用されており、次いで小田原線・JR御殿場線と鉄道の利用が多くなっている。

現在、小田原市内への買い物での移動の際に困ることはありますか。

問19-10 現在、小田原市内への買い物での移動の際に困ることはありますか。

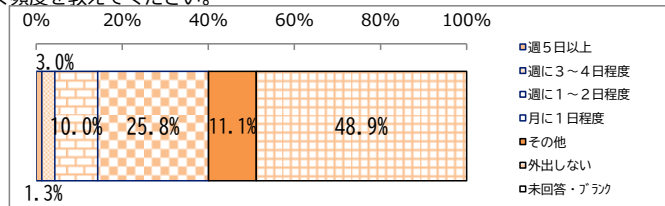
	回答数	%
1 困ることはない	316	55.0%
2 あまり困ることはない	135	23.5%
3 困る時もある	103	17.9%
4 困っている	12	2.1%
5 未回答・blank	9	1.6%
総計	575	100.0%



山北町・近隣市町・小田原市以外へ買い物に行く頻度を教えてください。

問19-11 山北町・近隣市町・小田原市以外へ買い物に行く頻度を教えてください。

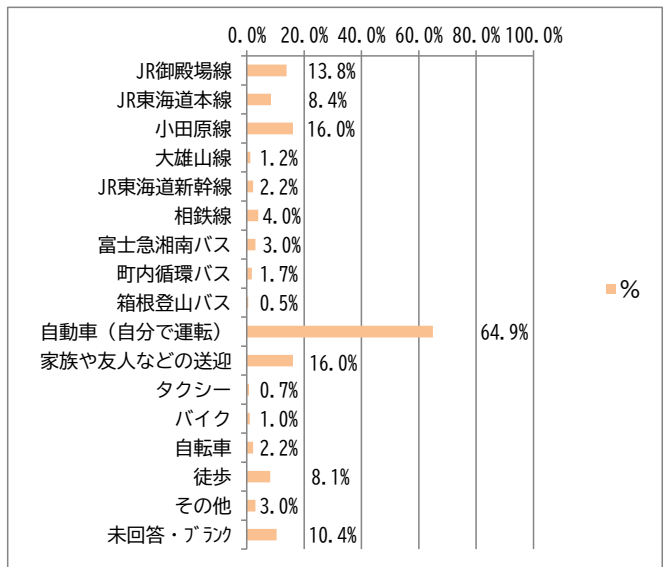
	回答数	%
1 週5日以上	10	1.3%
2 週に3～4日程度	24	3.0%
3 週に1～2日程度	79	10.0%
4 月に1日程度	204	25.8%
5 その他	88	11.1%
6 外出しない	387	48.9%
7 未回答・blank	0	0.0%
総計	792	100.0%



山北町・近隣市町・小田原市以外へ買い物で移動する際、普段（いつも）利用している交通手段は何ですか（複数回答可）。

問19-13 山北町・近隣市町・小田原市以外へ買い物で移動する際、普段（いつも）利用している交通手段は何ですか（複数回答可）。

	回答数	%
1 JR御殿場線	56	13.8%
2 JR東海道本線	34	8.4%
3 小田原線	65	16.0%
4 大雄山線	5	1.2%
5 JR東海道新幹線	9	2.2%
6 相鉄線	16	4.0%
7 富士急湘南バス	12	3.0%
8 町内循環バス	7	1.7%
9 箱根登山バス	2	0.5%
10 自動車（自分で運転）	263	64.9%
11 家族や友人などの送迎	65	16.0%
12 タクシー	3	0.7%
13 バイク	4	1.0%
14 自転車	9	2.2%
15 徒歩	33	8.1%
16 その他	12	3.0%
17 未回答・blank	42	10.4%
総計	405	-



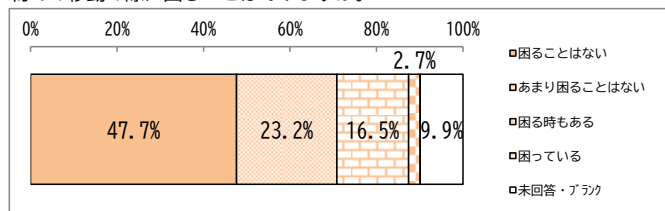
※複数回答可であるため%の合計は100%になりません

送迎も含めると約9割の方が車で移動と山北町・近隣市町・小田原市以外への買い物における移動手段の大半は車が使用されており、次いで小田原線・JR御殿場線の鉄道が利用されている。

現在、山北町・近隣市町・小田原市以外への買い物での移動の際に困ることはありますか。

問19-14 現在、山北町・近隣市町・小田原市以外への買い物での移動の際に困ることはありますか。

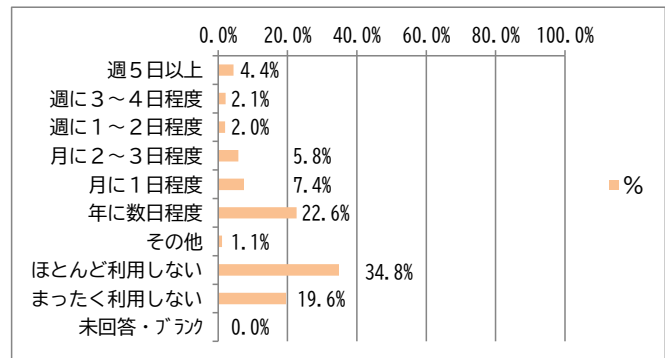
	回答数	%
1 困ることはない	193	47.7%
2 あまり困ることはない	94	23.2%
3 困る時もある	67	16.5%
4 困っている	11	2.7%
5 未回答・ブランク	40	9.9%
総計	405	100.0%



J R 御殿場線は日頃どの程度利用しますか。

問20 J R 御殿場線は日頃どの程度利用しますか。

	回答数	%
1 週5日以上	35	4.4%
2 週に3～4日程度	17	2.1%
3 週に1～2日程度	16	2.0%
4 月に2～3日程度	46	5.8%
5 月に1日程度	59	7.4%
6 年に数日程度	179	22.6%
7 その他	9	1.1%
8 ほとんど利用しない	276	34.8%
9 まったく利用しない	155	19.6%
10 未回答・ブランク	0	0.0%
総計	792	100.0%

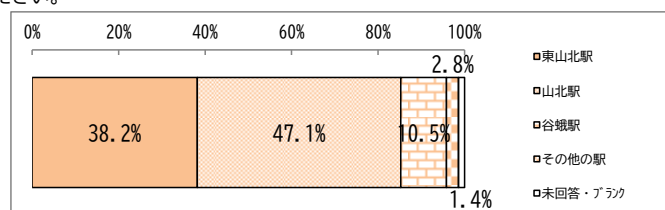


毎週JR御殿場線を利用されている方は8.5%で、利用しない方が54.4%と半数の方は利用していない現状となっている。

J R 御殿場線を利用する際の最寄りの駅を教えてください。

問21 J R 御殿場線を利用する際の最寄りの駅を教えてください。

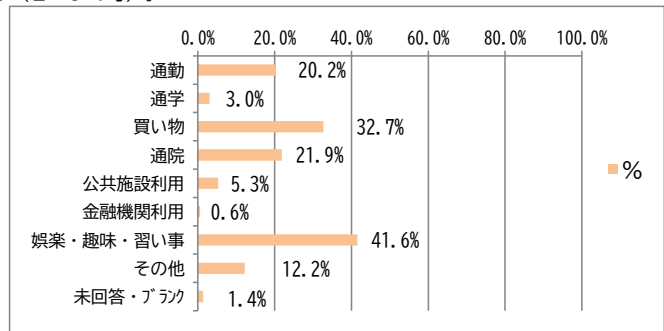
	回答数	%
1 東山北駅	138	38.2%
2 山北駅	170	47.1%
3 谷城駅	38	10.5%
4 その他の駅	10	2.8%
5 未回答・ブランク	5	1.4%
総計	361	100.0%



J R 御殿場線を利用する際の主な利用目的は何ですか（2つまで可）。

問22 J R 御殿場線を利用する際の主な利用目的は何ですか（2つまで可）。

	回答数	%
1 通勤	73	20.2%
2 通学	11	3.0%
3 買い物	118	32.7%
4 通院	79	21.9%
5 公共施設利用	19	5.3%
6 金融機関利用	2	0.6%
7 娯楽・趣味・習い事	150	41.6%
8 その他	44	12.2%
9 未回答・Blank	5	1.4%
総計	361	-

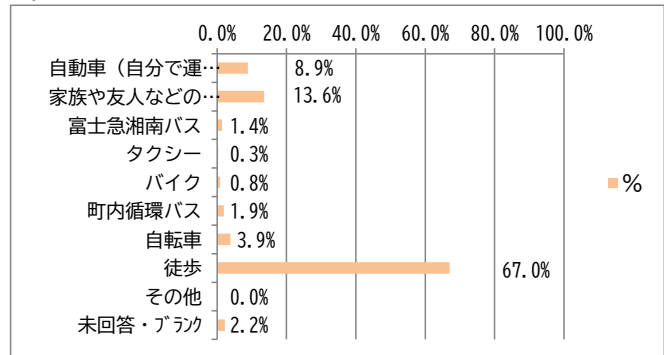


※複数回答可であるため%の合計は100%になりません

最寄りの駅までの主な移動手段についてお答えください。

問23 最寄りの駅までの主な移動手段についてお答えください。

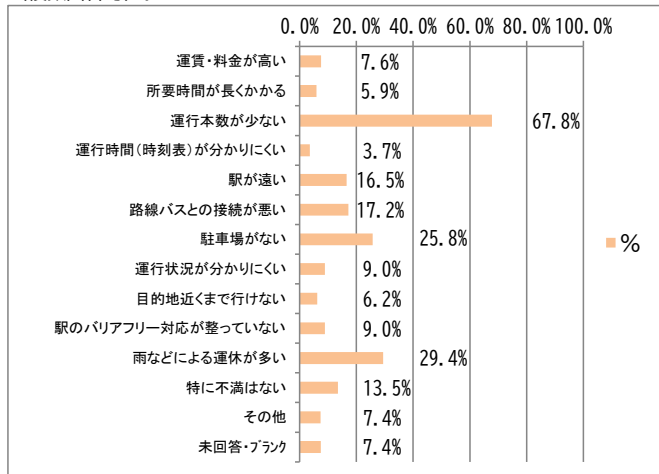
	回答数	%
1 自動車（自分で運転）	32	8.9%
2 家族や友人などの送迎	49	13.6%
3 富士急湘南バス	5	1.4%
4 タクシー	1	0.3%
5 バイク	3	0.8%
6 町内循環バス	7	1.9%
7 自転車	14	3.9%
8 徒歩	242	67.0%
9 その他	0	0.0%
10 未回答・Blank	8	2.2%
総計	361	100.0%



J R御殿場線について不満と覚ることはありますか（複数回答可）。

問24 J R御殿場線について不満と覚ることはありますか（複数回答可）。

	回答数	%
1 運賃・料金が高い	60	7.6%
2 所要時間が長くなる	47	5.9%
3 運行本数が少ない	537	67.8%
4 運行時間（時刻表）が分りにくい	29	3.7%
5 駅が遠い	131	16.5%
6 路線バスとの接続が悪い	136	17.2%
7 駐車場がない	204	25.8%
8 運行状況が分りにくい	71	9.0%
9 目的地近くまで行けない	49	6.2%
10 駅のバリアフリー対応が整っていない	71	9.0%
11 雨などによる運休が多い	233	29.4%
12 特に不満はない	107	13.5%
13 その他	59	7.4%
14 未回答・ブランク	59	7.4%
総計	792	-



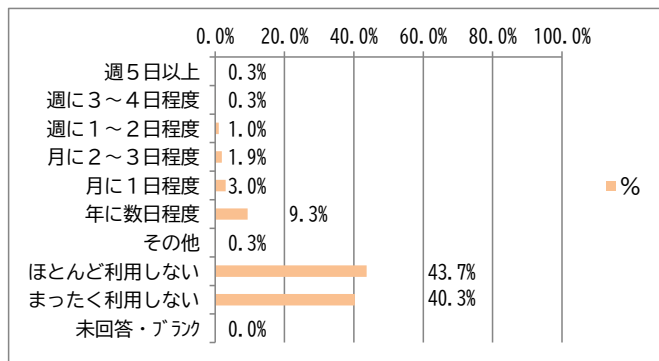
※複数回答可であるため%の合計は100%になりません

運行本数が少ないと約7割の方は感じており、次いで雨などによる運休が多いと感じている方や駅周辺に駐車場がなく不満と感じている方も約3割。また、自由意見にも散見されたが、路線バスとの接続が悪いと感じている方も約2割いる。その他意見として交通系ICカード（SuicaやPASMO）が使えなくて不便という声も散見された。

富士急湘南バスを日頃の程度利用しますか。

問25 富士急湘南バスを日頃の程度利用しますか。

	回答数	%
1 週5日以上	2	0.3%
2 週に3～4日程度	2	0.3%
3 週に1～2日程度	8	1.0%
4 月に2～3日程度	15	1.9%
5 月に1日程度	24	3.0%
6 年に数日程度	74	9.3%
7 その他	2	0.3%
8 ほとんど利用しない	346	43.7%
9 まったく利用しない	319	40.3%
10 未回答・ブランク	0	0.0%
総計	792	100.0%

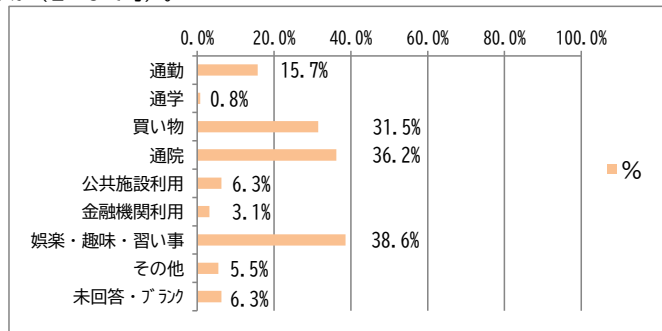


毎週、富士急湘南バスを利用されていると回答された方は1.6%と少ない。84%の方は利用していないという現状となっている。

富士急湘南バスを利用する際の主な利用目的は何ですか（2つまで可）。

問27 富士急湘南バスを利用する際の主な利用目的は何ですか（2つまで可）。

	回答数	%
1 通勤	20	15.7%
2 通学	1	0.8%
3 買い物	40	31.5%
4 通院	46	36.2%
5 公共施設利用	8	6.3%
6 金融機関利用	4	3.1%
7 娯楽・趣味・習い事	49	38.6%
8 その他	7	5.5%
9 未回答・blank	8	6.3%
総計	127	-

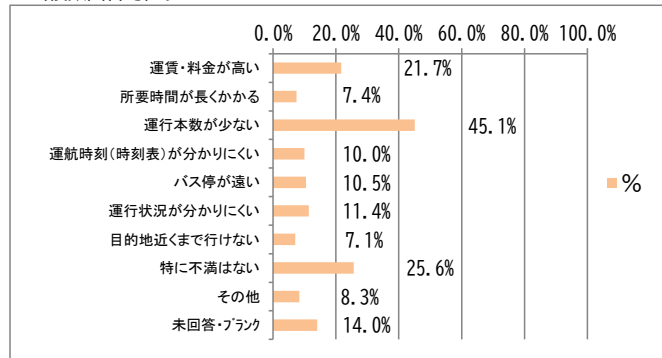


※複数回答可であるため%の合計は100%になりません

富士急湘南バスについて不満と覚えることはありますか（複数回答可）。

問28 富士急湘南バスについて不満と覚えることはありますか（複数回答可）。

	回答数	%
1 運賃・料金が高い	172	21.7%
2 所要時間が長くなる	59	7.4%
3 運行本数が少ない	357	45.1%
4 運航時刻（時刻表）が分かりにくい	79	10.0%
5 バス停が遠い	83	10.5%
6 運行状況が分かりにくい	90	11.4%
7 目的地近くまで行けない	56	7.1%
8 特に不満はない	203	25.6%
9 その他	66	8.3%
10 未回答・blank	111	14.0%
総計	792	-



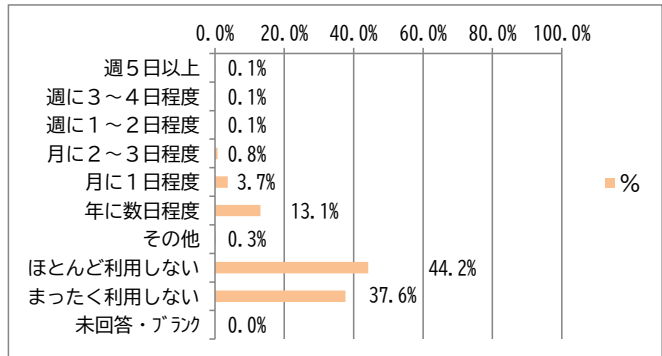
※複数回答可であるため%の合計は100%になりません

運行本数が少ないと感じている方が45.1%と最も多く、次いで運賃・料金が
高いと感じている方が21.7%となっている。

タクシーを日頃の程度利用しますか。

問29 タクシーを日頃の程度利用しますか。

	回答数	%
1 週5日以上	1	0.1%
2 週に3～4日程度	1	0.1%
3 週に1～2日程度	1	0.1%
4 月に2～3日程度	6	0.8%
5 月に1日程度	29	3.7%
6 年に数日程度	104	13.1%
7 その他	2	0.3%
8 ほとんど利用しない	350	44.2%
9 まったく利用しない	298	37.6%
10 未回答・blank	0	0.0%
総計	792	100.0%

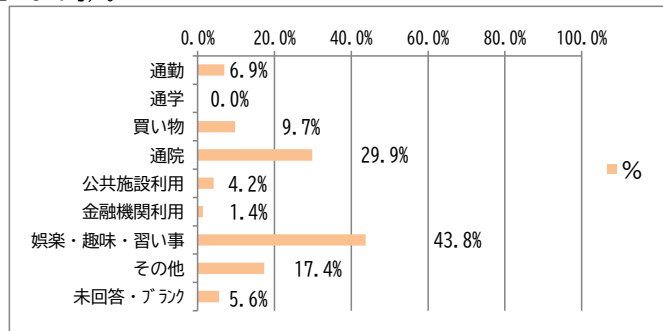


毎週、タクシーを利用されている方は0.3%と少ない。81.8%の方は利用しない
という現状となっている。

タクシーを利用する際の主な利用目的は何ですか（2つまで可）。

問30 タクシーを利用する際の主な利用目的は何ですか（2つまで可）。

	回答数	%
1 通勤	10	6.9%
2 通学	0	0.0%
3 買い物	14	9.7%
4 通院	43	29.9%
5 公共施設利用	6	4.2%
6 金融機関利用	2	1.4%
7 娯楽・趣味・習い事	63	43.8%
8 その他	25	17.4%
9 未回答・blank	8	5.6%
総計	144	-

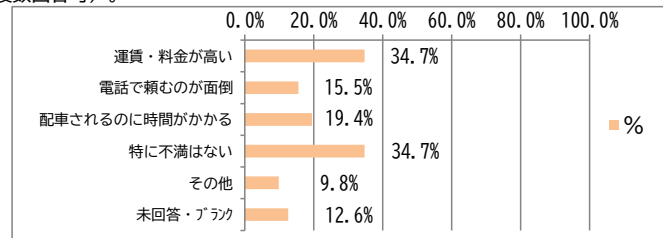


※複数回答可であるため%の合計は100%になりません

タクシーについて不満と覚えることはありますか（複数回答可）。

問31 タクシーについて不満と覚えることはありますか（複数回答可）。

	回答数	%
1 運賃・料金が低い	275	34.7%
2 電話で頼むのが面倒	123	15.5%
3 配車されるのに時間がかかる	154	19.4%
4 特に不満はない	275	34.7%
5 その他	78	9.8%
6 未回答・blank	100	12.6%
総計	792	-



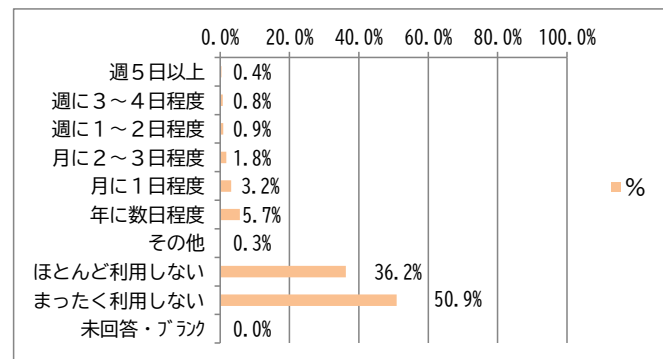
※複数回答可であるため%の合計は100%になりません

運賃・料金が低いという不満が34.7%と最も多く、次いで配車されるのに時間が掛かるとい不満が19.4%。その他意見として配車ができないことが多いという不満が多数見受けられた。

山北町内循環バスを日頃の程度利用しますか。

問32 山北町内循環バスを日頃の程度利用しますか。

	回答数	%
1 週5日以上	3	0.4%
2 週に3～4日程度	6	0.8%
3 週に1～2日程度	7	0.9%
4 月に2～3日程度	14	1.8%
5 月に1日程度	25	3.2%
6 年に数日程度	45	5.7%
7 その他	2	0.3%
8 ほとんど利用しない	287	36.2%
9 まったく利用しない	403	50.9%
10 未回答・blank	0	0.0%
総計	792	100.0%

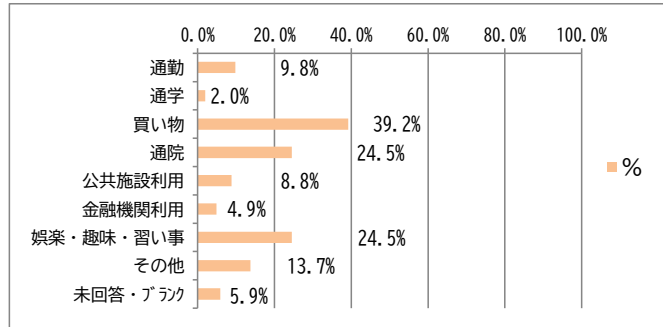


毎週、山北町内循環バスを利用されている方は2.1%と少なく、87.1%の方が利用していないという現状となっている。

山北町内循環バスを利用する際の主な利用目的は何ですか (2つまで可)。

問34 山北町内循環バスを利用する際の主な利用目的は何ですか(2つまで可)。

	回答数	%
1 通勤	10	9.8%
2 通学	2	2.0%
3 買い物	40	39.2%
4 通院	25	24.5%
5 公共施設利用	9	8.8%
6 金融機関利用	5	4.9%
7 娯楽・趣味・習い事	25	24.5%
8 その他	14	13.7%
9 未回答・ブランク	6	5.9%
総計	102	-

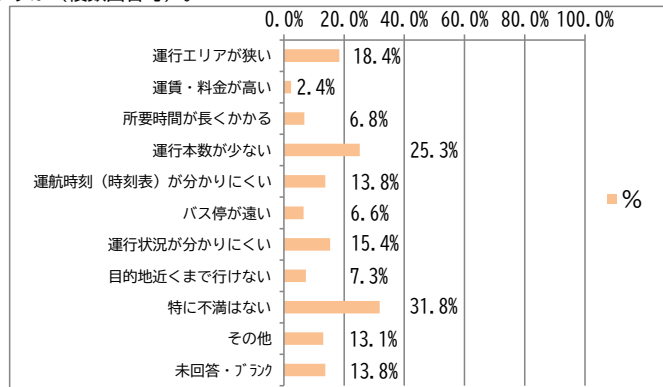


※複数回答可であるため%の合計は100%になりません

山北町内循環バスについて不満と覚えることはありますか (複数回答可)。

問35 山北町内循環バスについて不満と覚えることはありますか(複数回答可)。

	回答数	%
1 運行エリアが狭い	146	18.4%
2 運賃・料金が安い	19	2.4%
3 所要時間が長くなる	54	6.8%
4 運行本数が少ない	200	25.3%
5 運航時刻(時刻表)が分かりにくい	109	13.8%
6 バス停が遠い	52	6.6%
7 運行状況が分かりにくい	122	15.4%
8 目的地近くまで行けない	58	7.3%
9 特に不満はない	252	31.8%
10 その他	104	13.1%
11 未回答・ブランク	109	13.8%
総計	792	-



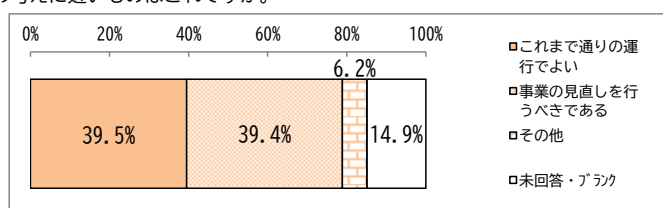
※複数回答可であるため%の合計は100%になりません

運行本数が少ないという不満が25.3%と最も多く、次いで、運行エリアが狭いという不満が18.4%となっている。その他意見として、JR御殿場線との接続が悪いという意見が散見された。

山北町内循環バスの今後のあり方について、あなたの考えに近いものはどれですか。

問36 山北町内循環バスの今後のあり方について、あなたの考えに近いものはどれですか。

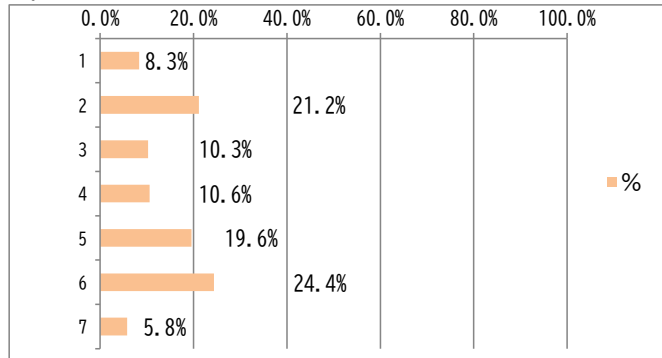
	回答数	%
1 これまで通りの運行でよい	313	39.5%
2 事業の見直しを行うべきである	312	39.4%
3 その他	49	6.2%
4 未回答・ブランク	118	14.9%
総計	792	100.0%



山北町内循環バスの見直しすべき内容を教えてください。

問37 山北町内循環バスの見直しすべき内容を教えてください。

	回答数	%
1 基本的に廃止する（小中学生の通学には別の手段を検討する）	26	8.3%
2 利用の少ない時間帯は減便し、運行経費の削減を図る	66	21.2%
3 運行経費を増額し、運行便数を増やす	32	10.3%
4 運行経費を増額し、運行ルートを増やす	33	10.6%
5 事前予約型の運行に変更し、乗降できる地点と便数を増やす（運行経費の増額が想定される）	61	19.6%
6 その他	76	24.4%
7 未回答・blank	18	5.8%
総計	312	100.0%

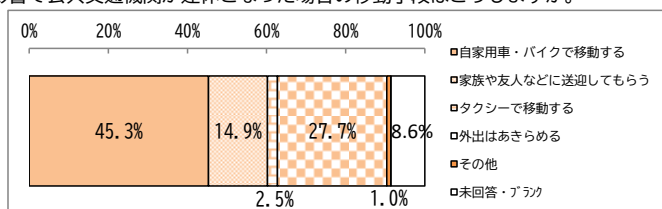


利用の少ない時間帯は減便し、運行経費の削減を図るという意見が21.2%と最も多く、次いで、事前予約型の運行に変更し乗降できる地点と便数を増やすが19.6%となっている。その他意見として、運行便数も運行ルートも増やすべきという意見やバスの小型化（現状サイズとハイエース等の小型サイズの併用）、運行ルートに入っていないので町内全域をルートにして欲しいという意見が散見された。

外出（通勤・通学含む）するにあたり、大雨などの影響で公共交通機関が運休となった場合の移動手段はどうしますか。

問38 外出（通勤・通学含む）するにあたり、大雨などの影響で公共交通機関が運休となった場合の移動手段はどうしますか。

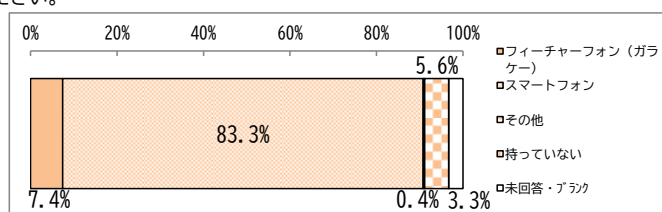
	回答数	%
1 自家用車・バイクで移動する	359	45.3%
2 家族や友人などに送迎してもらう	118	14.9%
3 タクシーで移動する	20	2.5%
4 外出はあきらめる	219	27.7%
5 その他	8	1.0%
6 未回答・blank	68	8.6%
総計	792	100.0%



あなたがお使いの携帯電話の種類について教えてください。

問39 あなたがお使いの携帯電話の種類について教えてください。

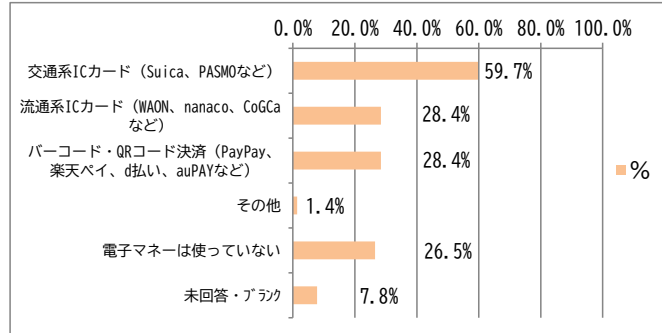
	回答数	%
1 フィーチャーフォン（ガラケー）	59	7.4%
2 スマートフォン	660	83.3%
3 その他	3	0.4%
4 持っていない	44	5.6%
5 未回答・blank	26	3.3%
総計	792	100.0%



あなたがお使いの電子マネー等の種類について教えてください
(複数回答可)。

問40 あなたがお使いの電子マネー等の種類について教えてください(複数回答可)。

	回答数	%
1 交通系ICカード (Suica、PASMOなど)	473	59.7%
2 流通系ICカード (WAON、nanaco、CoGCaなど)	225	28.4%
3 バーコード・QRコード決済 (PayPay、楽天ペイ、d払い、auPAYなど)	225	28.4%
4 その他	11	1.4%
5 電子マネーは使っていない	210	26.5%
6 未回答・blank	62	7.8%
総計	792	-

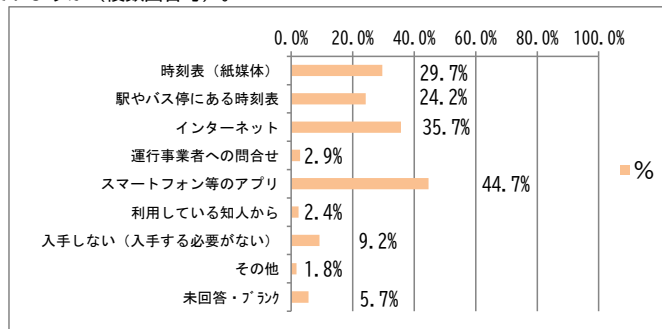


※複数回答可であるため%の合計は100%になりません

鉄道や路線バス等に関する情報をどのように入手していますか
(複数回答可)。

問41 鉄道や路線バス等に関する情報をどのように入手していますか(複数回答可)。

	回答数	%
1 時刻表 (紙媒体)	235	29.7%
2 駅やバス停にある時刻表	192	24.2%
3 インターネット	283	35.7%
4 運行事業者への問合せ	23	2.9%
5 スマートフォン等のアプリ	354	44.7%
6 利用している知人から	19	2.4%
7 入手しない (入手する必要がある)	73	9.2%
8 その他	14	1.8%
9 未回答・blank	45	5.7%
総計	792	-



※複数回答可であるため%の合計は100%になりません

自由意見

自由意見は将来が心配だという声が多く、また、公共交通の充実・改善を求める声が非常に多い。以下に代表的な自由意見抜粋を記載します。

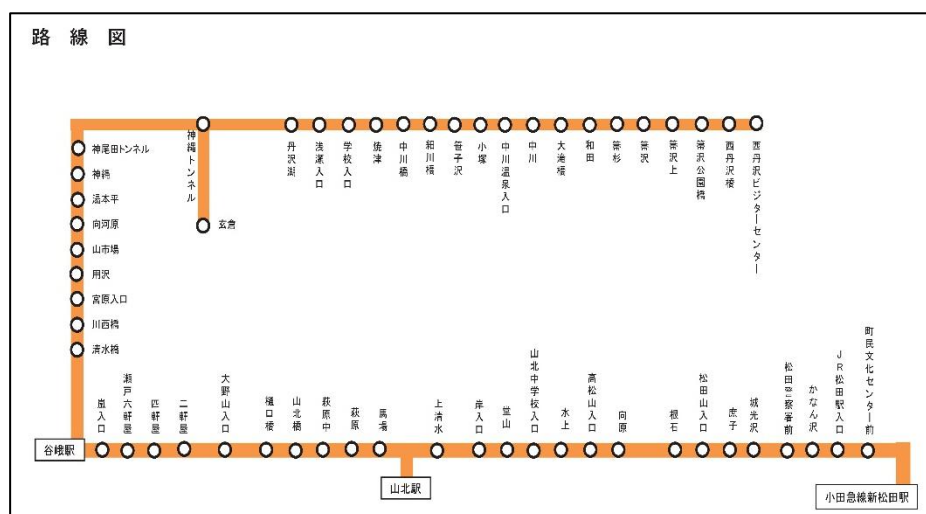
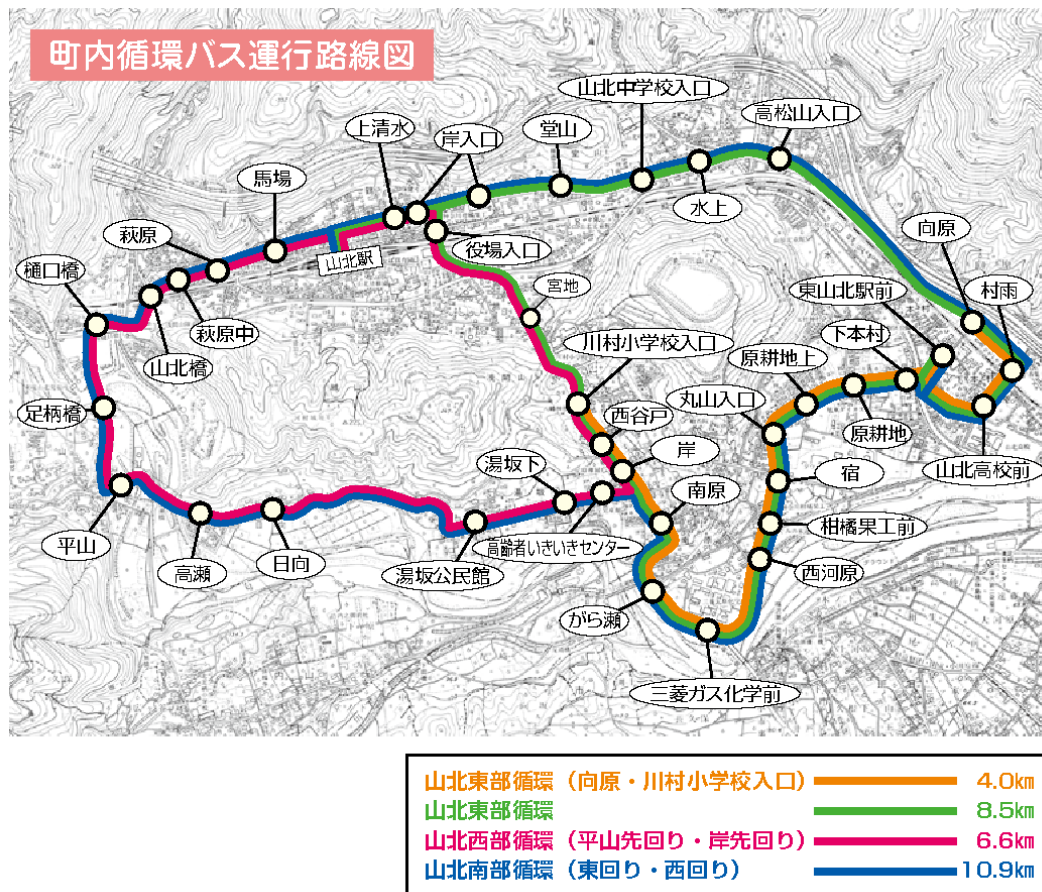
自由意見（抜粋）
御殿場線の本数を増やして欲しい。少々の雨で運休しないで欲しい。
スマホを利用しアプリでコミュニティバスを活用して町民の足にする。山北町内循環バスは小回りが利かないので、今使っているバスは廃車にしてハイエースクラスの車に変えたほうが良い。循環バスに経費がかかりすぎている。
JR御殿場線の本数増加（小田急線の乗り入れとか）。
今は車の運転で移動できているが、近い将来車の運転が出来なくなったら不安を感じる。
無人運転、バス、タクシー、ロボット配送など近未来に向かって導入準備を考えて欲しい。
町内だけではなく近隣市町村と共同で循環バスを運行させると良いと思う。バスは予約制とし予約が入っていないときは運行をやめる。
運転免許所を返納した場合、買い物などが困る地域に住んでいるのでなかなか返納を考えられない。町外への移動に公共交通機関を利用するのは本数などの関係で不便をすることが多いが、利用者が増えることも考えにくいです。町内で買い物が増えるようになればと思います。町内店舗への買い物代行みたいな事業があっても良いのではと思います。
現状が分からないが、外部委託し普通免許で運転できる中型ワゴンにて予約型運行へ変更すればさほど経費がからずできないか。オンデマンドタクシーを広く周知し、利用しやすい（誰でも）環境を整える。
高齢者が多いので高齢者に沿った公共交通の充実を望む。JR御殿場線の本数を増やし利用促進に繋がりたい。ライドシェア的な発想も必要ではないでしょうか。
松田駅（上り下り）まで1時間に2本位の運転になると交通の便が良くなり、山北駅や東山北駅の乗降が多くなり住みやすくなると思う。御殿場～松田間を多くする。
バスは乗らないという人がけっこういる。マイクロバス7～8人乗りの運行を増やして、富士急行バスが撤退したら経費はかからないと思います。現在2台の大型バスは廃止して（経費がかかりすぎ）マイクロバスを増便して本数増やせるし、日中は買い物程度で利用するだけなら経費もかからないと思います。マイクロバスを増便し運転士を確保して雇用にもつながり効率の良いバス運用をやってください。
AIタクシーの導入。山北町のふるさと納税の返礼品にタクシー券を入れて欲しいです。山北駅で交通系電子マネーをチャージ出来るようにして欲しいです。駅のバリアフリー化（エレベーターの設置など）も。話がずれるかもしれませんが、おそらく公共交通の運転手の方たちが駅前で喫煙をしているのをどうにかして欲しいです。マナー改善や喫煙場所をしっかりと設けるなど。
現在松田町で試験運行をしているAIオンデマンドバス「のるーと足柄」を山北町でも導入すると良いかと思います。今は試験の段階のようですが各町内で無く足柄上エリア、足柄下エリア、小田原エリアまで広げると免許返納したお年寄りは買い物、病院への移動に大変助かると思います（小田原の病院に行けなくて困っている高齢の方が近所にいらっします）。

自由意見（抜粋）
現在は免許の返納を考えていませんが、返納した場合を考えると町内循環バスを利用すると思うので、将来も残してもらえればと思います。
路線バス利用において最寄りのバス停から乗車し、下車時は家近郊での場所を各自指定し下車出来る様にして頂きたい。
循環バスは高齢者の町には必要なので無くす事は出来ないと思います。今の循環バスも大分古くなってきていると思うので、燃料のかからない小型化にして町民の足や観光に来る人の足に利用して欲しいです。
せっかく移住してくれた若い世代の方々に安心してずっと住み続けて頂く為にも、公共交通は重要だと思います。現在、山北駅前商店街から次々とお店が無くなり、高齢者や運転困難者は日常品の買い物をする為に町内循環バスを利用しています。運行に経費がかかることは理解していますが、安易な廃止は避けていただきたい。これ以上「何もない町」になってしまったら、住み続けたくても住み続けることができなくなってしまいます。役場のご担当の方々には現状をよくお調べいただき、公共交通を維持していくための工夫を真剣に考えていただきたい。経費を増やさなくてもできることはまだあると思います。
岸（越地）地区に住んでいるので、役場に行く以外はほとんど車で他町に出ていきます。町内循環バスでは用が足せないです。山北駅も東山北駅もパーキングがないため、松田まで車で行き小田急線に乗ります。当地区は車がないと生活を楽しめません。町外に出るバスもあったらいいと思います。
清水地区、三保地区では公共の乗り物が近づくなく、あっても便数が少なく利用しにくい。①町営タクシー②ライドシェア③その他を早く整備して欲しい。安戸～小山間の246号線は朝夕や土日祝は大変混雑します。清水地区、三保地区は生活道路が246号線のため身動き出来ない。246号線バイパスの早期実施（安戸～清水橋間トンネル工事（案））。
清水地区よりタクシー券頂いております。松田駅より自宅までお願いするのですが、松田合同だけしか使用出来ません。箱根タクシーも使用出来るとありがたいです。
移住者も増えています。都内への通勤通学にも耐えられる時間ですが、御殿場線の本数が少なすぎます。通勤通学時には20分に1本、それ以外はコンスタントに30分に1本と本数が増えると都内だけでなく県内への移動もしやすいです。これは多分、御殿場線の市町村の希望でもあります。全世代、公共交通機関の増加があれば、もっと利用が増えると思います。
バスもタクシーも電車ももっと本数が増えたらいいが、自由に気軽に安価に乗れば申し分ない。御殿場線も特に山北、松田駅にはエレベーターが設置されることを望む。足腰の弱い老人に優しく楽しい安全な公共交通利用で明るい町になって欲しい。
旧246号線沿いに住んでいますが、土日の渋滞がひどい。この人たちは今は山北を通過して行くのですが、足を止めてくれるような施設があったらいいと思います。
車が運転できない人の為、サポートとして普通免許タクシー特区の推進。サポート車両に対するガソリン補助。ドライバーへの安全教育、労務管理の支援。サポートを必要とする方々へのインフラ整備（ワンボタン呼び出しスマホ等）。生活用品（食料や生活必需品）の巡回配達（オンデマンド注文も可）。医療巡回なども考えて欲しい。

(2) 路線バス・コミュニティバス乗降数調査

I 調査概要

- 1 調査対象：路線バス・コミュニティバスの利用者（全路線）
- 2 調査方法：調査員による観測
- 3 調査期間：令和5年12月9日（土）、12月11日（月）の2日間



資料：山北町役場HP、富士急湘南バス株式会社HPより

Ⅱ 調査結果

路線バス・コミュニティバスの路線ごとの各バス停ごとの乗降客数調査を実施した。平日は57運行で460名の乗降客が利用し、1運行あたり平均乗車人数は8.1人で、1運行あたりの平均乗車人数が最も多かった路線は東部循環（向原→川村小学校入り口）であった。休日は33運行と平日の約半分の運行ではあるが632名の乗降客が利用し、1運行あたり平均乗車人数は19.2人で、1運行あたりの平均乗車人数が最も多かった路線は新松田→西丹沢ビジターセンターで40.6であった。休日は登山客で最初の1～2便は満車状態で観光客の利用が目立った。

■平日の路線バス・コミュニティバス路線別調査結果

路線名	バス 停数	始発⇒終点	運行 本数	乗車人 数計	降車人 数計	乗降人 数計	1運行あたり平均 乗降人数
東部循環 （向原⇒川村小学校入り口）	17	向原⇒山北駅	1	26	26	52	52.0
東部循環 （山北駅⇒山北駅）	28	山北駅⇒山北駅	1	1	1	2	2.0
西部循環 （平山先回り）	21	山北駅⇒山北駅	3	8	8	16	5.3
西部循環 （岸先回り）	20	山北駅⇒山北駅	2	1	1	2	1.0
新松田駅 ⇒山北駅	17	新松田駅⇒山北駅	12	44	44	88	7.3
山北駅 ⇒新松田駅	17	山北駅⇒新松田駅	11	36	36	72	6.5
新松田駅 ⇒西丹沢ビジターセンター	58	新松田駅⇒西丹沢	6	38	38	76	12.7
西丹沢ビジターセンター ⇒新松田駅	58	西丹沢⇒新松田駅	7	35	35	70	10.0
山北駅⇒新松田駅 （岸回り）	27	山北駅⇒新松田駅	2	4	4	8	4.0
新松田駅⇒山北駅 （岸回り）	27	山北駅⇒新松田駅	1	3	3	6	6.0
南部循環 東回り （向原先回り）	34	山北駅⇒山北駅	5	13	13	26	5.2
南部循環 西回り （平山先回り）	34	山北駅⇒山北駅	5	17	17	34	6.8
川村小学校入り口⇒新松田駅 （岸回り）	23	川村小学校入り口⇒ 新松田駅	1	4	4	8	8.0
合 計			57	230	230	460	8.1

■休日の路線バス・コミュニティバス路線別調査結果

路線名	バス 停数	始発⇒終点	運行 本数	乗車人 数計	降車人 数計	乗降人 数計	1運行あたり平均 乗降人数
東部循環 (向原⇒川村小学校入り口)	17	向原⇒山北駅	0	—	—	—	—
東部循環 (山北駅⇒山北駅)	28	山北駅⇒山北駅	0	—	—	—	—
西部循環 (平山先回り)	21	山北駅⇒山北駅	0	—	—	—	—
西部循環 (岸先回り)	20	山北駅⇒山北駅	0	—	—	—	—
新松田駅 ⇒山北駅	17	新松田駅⇒山北駅	2	7	7	14	7.0
山北駅 ⇒新松田駅	17	山北駅⇒新松田駅	3	2	2	4	1.3
新松田駅 ⇒西丹沢ビジターセンター	58	新松田駅⇒西丹沢	7	142	142	284	40.6
西丹沢ビジターセンター ⇒新松田駅	58	西丹沢⇒新松田駅	7	113	113	226	32.3
山北駅⇒新松田駅 (岸回り)	27	山北駅⇒新松田駅	1	7	7	14	14.0
新松田駅⇒山北駅 (岸回り)	27	山北駅⇒新松田駅	1	5	5	10	10.0
南部循環 東回り (向原先回り)	34	山北駅⇒山北駅	6	26	26	52	8.7
南部循環 西回り (平山先回り)	34	山北駅⇒山北駅	6	14	14	28	4.7
川村小学校入り口⇒新松田駅 (岸回り)	23	川村小学校入り口⇒ 新松田駅	0	—	—	—	—
合 計			33	316	316	632	19.2

バス停ごとの乗降数に着目すると最も利用が多かったバス停は平休ともに新松田駅となっている。休日は登山客の利用から西丹沢ビジターセンターや高松山入口バス停の利用が多くなっている。逆に1日通して乗降人数が0名だったバス停が平日で31バス停、休日で32バス停と全82バス停のうち約4割は全く乗降がないという結果であった。また、平休ともに1日乗降がなかったバス停は18バス停あり、今後、バスルートの再編やバス停の検討も必要である。

■平休別乗降別の利用人数が多かったバス停

平休別	区分	1位	2位	3位
平日	乗車人数/日	新松田駅 (78人)	山北駅 (25人)	原耕地・高松山入口 (14人)
	降車人数/日	新松田駅 (58人)	川村小学校入口 (27人)	山北駅 (26人)
	乗降人数/日	新松田駅 (136人)	山北駅 (51人)	川村小学校入口 (27人)
	1回あたりの平均乗降人数	川村小学校入口 (3.79人)	新松田駅 (2.77人)	山北高校前 (2.10人)
休日	乗車人数	新松田駅 (123人)	西丹沢ビジターセン ター (51人)	谷峨駅 (25人)
	降車人数	新松田駅 (96人)	西丹沢ビジターセン ター (46人)	高松山入口 (32人)
	乗降人数	新松田駅 (219人)	西丹沢ビジターセン ター (97人)	高松山入口 (48人)
	1回あたりの平均乗降人数	西丹沢ビジターセン ター (6.93人)	新松田駅 (6.78人)	谷峨駅 (2.43人)

■平休ともに利用者0名だったバス停（18バス停）

がら瀬	柑橘果工前	丸山入口	山北橋	神尾田トンネル
水上	瀬戸六軒屋	西河原	川西橋	中川橋
湯本平	二軒屋	馬場	役場入口	用沢
嵐入口	和田	箒沢上		

Ⅲ 地域公共交通の課題

1. 地域公共交通の課題

(1) 公共交通網の強化と整備

本町では、自動車の利用率が高く、鉄道やバス等の公共交通の利用者数は年々減少している状況ではありますが、自動車を運転できない移動制約者に通勤・通学等でよく利用されるなど、移動手段として重要な役割を担っています。特に、鉄道利用者は神奈川県内及び静岡県（御殿場市・小山町）など町外への移動、バスは市内や近隣地域への移動に利用されています。

また、人口減少・高齢化が年々進行し、自家用車の運転が困難な住民はより増加することが懸念されますが、本町の公共交通網は空白地もあり、けして充分と言える現状ではないため、今後、買い物や通院などの日常の移動が困難となる高齢者が増加することも考えられます。併せて、人口減少による交通需要の減少により、鉄道、バスとも、現行の運行サービス水準の維持が困難となる可能性がある一方で、高齢化の進行により公共交通の役割は、より重要になると考えられますので、新たな移動手段の確保を含め、公共交通網の強化及び整備が必要となります。

(2) 将来にわたり持続可能な移動手段の確保

人口減少・高齢化に伴う将来的な税收減や社会福祉費の増加により、町が運行経費の一部を負担している公共交通への財政的な影響も予想されます。

本町では、路線バス事業者が撤退したバス路線を補完するためコミュニティバスを路線バス事業者に委託して運営し、小中学校スクールバスや福祉バスも町からの補助金を活用して運行しております。

今後とも公共交通を維持していくためには、町が運行経費の一部を負担している公共交通に対して、費用対効果に留意するなど、持続可能性を考慮していくことが必要です。また、利用状況に応じた運行内容の見直し及び改善を図る必要があります。併せて、公共交通の担い手の確保も検討が必要であり、将来にわたり安定して維持していける公共交通の体制づくりを目指す必要があります。

(3) まちづくりの関連計画と連動した公共交通体系の構築

今後の人口見通しを踏まえるとともに、本町のまちづくりの将来像や方針を踏まえた地域公共交通体系の構築が必要です

「第2期人口ビジョン・総合戦略」では、「山北町への新しいひとの流れをつくる」を基本目標の1つとし、転入者や観光客数を増やすことを目標としています。目標実現のためには、本町を訪れた人が不便しない公共交通があることは大きな要素であると考えられます。また、総合戦略先駆的事例として、「地域公共交通網の形成事業」が掲げられており、地域公共交通の現状と課題を整理し、町内全体を一体的に捉え、周辺自治体等との広域連携を視野に入れた交通利便性の向上を図るための計画を策定していく必要があると明記されています。

また、まちづくりの指針となる「山北町都市計画マスタープラン」では、分野別取り組み方針の中に交通体系整備の方針があり、上位計画である「山北町第5次総合計画」においても、交通利便性の向上は重要課題であると示されており、基本計画において利便性の高い交通基盤の整備の必要性が挙げられています。

地域公共交通はこうしたまちづくりの将来像や方針と連動したものである必要があります。

IV 将来像と基本方針等

1. 地域公共交通の将来像の基本理念の設定

山北町が目指していく地域公共交通の将来像を設定します。

■山北町における地域公共交通の将来像の基本理念

みんなでつくり、みんなでももる、いつまでも暮らしを支える地域公共交通

行政・住民・交通事業者など本町にかかわる全ての方が、将来にわたり地域公共交通の維持に積極的に取り組み、安心して豊かな生活ができるまちの実現を目指していく。

■山北町における地域公共交通の特性と役割

機能分類	交通機関等	特性・役割
広域幹線	JR御殿場線	・東西広域連携軸の1つ ・町外への長距離移動の要となる公共交通 ・通勤及び通学に必要な不可欠な公共交通
地域内幹線	コミュニティバス 路線バス	・町内での移動における最重要となる公共交通 ・主要駅（新松田駅含む）や主要施設へのアクセス ・観光地へのアクセス ・新松田西丹沢線は補助系統に該当し、松田町から山北町に跨って運行しており、両町の各拠点を連絡し、通勤通学、買物、通院等の日常生活行動だけでなく、観光・レジャーなど多様な目的での移動を担っている
支線	共和福祉バス スクールバス	・公共交通不便地域の移動手段 ・清水及び三保地区の児童、生徒が小中学校へ通学するための移動手段
面的輸送	タクシー	・個々の移動ニーズに対応 ・高齢者や障がい者、交通不便地域における移動手段
交通結節拠点	山北駅	・上記の公共交通機関をつなげる拠点 ・地域コミュニティの中心地

2. 基本方針の設定

山北町における公共交通の課題に対して、課題を解消するため、以下に掲げる基本方針を設定します。

基本方針1 使いやすく移動しやすい地域公共交通ネットワークの構築

町内の公共交通不便地域や交通空白地域における移動手段の確保や支援を図るとともに、新たな移動サービスの導入についての検討を進め、生活しやすく移動に困ることのない公共交通ネットワークの構築を目指します。また、現在、町が実施している移動サービスや補助事業の在り方についても見直しを図ります。

基本方針2 町民や来訪者にとって利用しやすい公共交通サービスの提供

町の基幹交通であるＪＲ御殿場線、富士急湘南バスが提供する交通サービスの維持、利用促進を目指す取り組みを進めます。

基本方針3 みんなで守り、みんなで育む地域公共交通の実現

住民、行政、事業者が一体となり、取り組みを推進することで、持続可能な公共交通を目指します。また、公共交通の担い手の確保など、将来にわたり安定して維持できる体制づくりを目指します。

3. 計画の目標

基本方針1 使いやすく移動しやすい地域公共交通ネットワークの構築

■目標

地域の実情に対応した持続可能な移動手段の確保

■指標

指標	現況値（R4）	目標値（R10）
山北町内循環バスの利用者数 ※1	31,933人/年	37,000人/年 ※2
山北町内循環バスの収支率 ※3	0.22 ※4	0.18 ※5

※1 町内循環ルート・新松田駅⇄山北駅の合利用者数

※2 コロナ影響前の実績数への回復を目指す

※3 収支率＝収入額（運賃）／支出額（委託料）

※4 R4の収支率：4,513,278円÷20,430,000円＝0.22

※5 R10の収支率：4,700,000円÷26,000,000円＝0.18

基本方針2 町民や来訪者にとって利用しやすい公共交通サービスの提供

■目標1

将来にわたる公共交通サービスの提供

■指標

指標	現況値（R4）	目標値（R10）
J R御殿場線の利用者数 ※1	1,247人/日	1,200人/日 ※3
富士急湘南バスの利用者数 ※2	61,171人/年	61,000人/年 ※3

※1 東山北駅、山北駅、谷蛾駅の合計日利用者数 現況値は令和3年度の実績

※2 新松田駅⇄西丹沢VC、新松田駅⇄山北駅、2路線の合計年利用者数

※3 目標値は現状維持を目指す

■目標2

分かりやすく利用したくなるような情報の提供

■指標

指標	現況値（R4）	目標値（R10）
公共交通マップの作製	0	1 ※1

※1 計画期間中の作成を目指す

■目標3

安全・安心に移動できる交通環境の整備

■指標

指標	現況値（R4）	目標値（R10）
バス待合環境の整備箇所数 ※1	0か所	2か所

※1 現状のバス停は176か所

基本方針3 みんなで守り、みんなで育む地域公共交通の実現

■目標

地域全体で公共交通を支える意識の醸成

■指標

指標	現況値（R4）	目標値（R10）
利用促進につながるイベントの開催回数	0回/年	2回/年
必要性を啓発する広報等の実施回数	0回/年	2回/年

V 目標達成のための事業及び実施主体等

基本方針1 使いやすく移動しやすい地域公共交通ネットワークの構築

1-1 公共交通不便地域における移動手段の確保

公共交通不便地域や交通空白地域における移動手段の確保や必要な支援を検討します。

■事業エリア

町内全域

■主な事業

事業	事業内容
山北町内循環バス運行事業の再編・見直し	現状の利用状況やニーズを踏まえ、運行便・ダイヤの再編や、デマンド方式など運行形態の見直しについて検討します。
共和福祉バスの運行支援	地域住民が事業主体となる運行が継続できるよう、必要な支援に努めます。
清水、三保地区におけるデマンドタクシー導入検討	既存の公共交通の補完を図るため、デマンドタクシーの導入について検討します。
小中学校スクールバスの通行活用の検討	清水・三保地区の輸送資源であるスクールバスについて、児童・生徒以外の乗車など有効活用について検討します。
自家用有償旅客運送等の導入支援	自家用有償旅客運送など地域が事業主体となる移動サービスの導入を検討する地域に必要な支援を行います。
鉄道駅・バス停までの移動支援の検討	最寄りの鉄道駅やバス停までの移動が不便な地域における移動手段について検討を進めます。

■実施主体

山北町

■事業実施スケジュール

令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
検討				
準備が整い次第実施・検証・随時見直し（事業評価：毎年）				
継続実施（支援）				

1-2 町が実施する移動支援事業等の見直し及び創設

現在、町が実施している移動サービスや補助事業のあり方について、見直しを図ります。

■事業エリア

町内全域

■主な事業

事業	事業内容
既存の移動支援事業や各種補助制度の見直し	外出支援サービス事業、福祉タクシー等助成事業などの既存事業について効果検証を行い、必要な見直しを実施します。

■実施主体

山北町

■事業実施スケジュール

令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
継続実施・随時見直し（事業評価：毎年）				

1-3 先端技術による移動手段の活用に向けた検討

既存の移動サービスや補助事業だけではなく、新たな移動サービスの導入を検討します。

■事業エリア

町内全域・周辺市町

■主な事業

事業	事業内容
先端技術の活用による移動手段の調査研究	グリーンスローモビリティ、超小型モビリティ、自動運転など、先端技術を活用した移動手段の活用に向けた検討を進めます。
MaaSの活用に向けた調査研究	複数の公共交通手段を包括した経路検索・予約・運賃決済など、情報通信技術を活用したMaaSの構築に向けた調査研究を進めます。

■実施主体

山北町

■事業実施スケジュール

令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
検討・準備が整い次第実施				
		実証・随時見直し（事業評価：必要に応じ随時）		

基本方針2 町民や来訪者にとって利用しやすい公共交通サービスの提供

2-1 鉄道路線の輸送力の維持

町の基幹交通であるＪＲ御殿場線の輸送力の現状維持のため、交通事業者への要望・調整・協議を進めます。また、利便性向上による利用促進も図ります。

■事業エリア

ＪＲ御殿場線

■主な事業

事業	事業内容
ＪＲ御殿場線の輸送力の維持	現状の輸送力を維持するため沿線自治体などと連携を図り、鉄道事業者への要望活動を継続的に実施します。
交通系ＩＣカードの利便性の向上	交通系ＩＣカードのサービスエリアを跨いだ利用が可能となるよう、鉄道事業者への働きかけを行います。

■実施主体

鉄道事業者、山北町

■事業実施スケジュール

令和６年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度	令和１０年度
継続実施（事業評価：必要に応じ随時）				

2-2 路線バスの輸送力の維持

鉄道と同じく、町の重要な基幹交通である路線バスの輸送力の現状維持のため、交通事業者への要望・調整・協議を進めます。

■事業エリア

路線バス運行エリア

■主な事業

事業	事業内容
富士急湘南バスの輸送力の維持	現状の輸送力を維持するため、バス事業者との協議・調整に努めます。特に西丹沢線は、清水・三保地区住民の基幹交通であるとともに、西丹沢を訪れる観光客の唯一の交通手段であるため、この路線の維持・確保に努めます。

■実施主体

路線バス事業者、山北町

■事業実施スケジュール

令和６年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度	令和１０年度
継続実施（事業評価：必要に応じ随時）				

2-3 タクシーの利用促進

移動の自由度が高いタクシーの利用を促進する啓発事業を検討します。

■事業エリア

町内全域

■主な事業

事業	事業内容
タクシー利用啓発事業の検討	自由度や快適性が高いタクシーの利用促進を図るため、啓発事業の実施について検討します。

■実施主体

タクシー事業者、山北町

■事業実施スケジュール

令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
検討				
準備が整い次第実施・検証・随時見直し（事業評価：毎年）				

2-4 東名ハイウェイバスの利用促進

高速道路沿線への移動の公共交通機関の1つであるハイウェイバスの利用者増加につながる利用促進を図ります。

■事業エリア

ハイウェイバスバス停周辺

■主な事業

事業	事業内容
山北バス停駐車場の利用促進	ハイウェイバス利用者のために整備した町駐車場を積極的にPRし、ハイウェイバスの利用促進を図ります。

■実施主体

バス事業者、山北町

■事業実施スケジュール

令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
継続実施（事業評価：必要に応じ随時）				

2-5 鉄道駅、バス停の機能強化

町の基幹交通である鉄道およびバスの利用促進を図るため、鉄道駅及びバス停の機能強化を検討します。

■事業エリア

鉄道駅及びバス停周辺

■主な事業

事業	事業内容
パーク&ライド、サイクル&バスライドの検討	パーク&ライド、サイクル&バスライドによる鉄道駅、バス停の機能強化について検討します。

■実施主体

鉄道事業者、バス事業者、山北町

■事業実施スケジュール

令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
検討				
準備が整い次第実施・検証・見直し（事業評価：毎年）				

2-6 公共交通のわかりやすい情報提供

誰もが公共交通の情報を簡単に入手できるよう、町ホームページ等による多様なツールを活用した情報提供を行うとともに、駅・バス停などにおける情報案内の充実を図ります。

■事業エリア

町内全域

■主な事業

事業	事業内容
駅・バス停などにおける情報案内の充実	町民だけでなく、来訪者にもわかりやすい公共交通情報の提供ができるよう、駅・バス停等における案内表示の改善について検討します。
多様なツールを活用した情報提供	町ホームページ等による多様なツールによる情報提供を行うとともに、公共交通マップの作成・配付について検討します。

■実施主体

鉄道事業者、バス事業者、山北町

■事業実施スケジュール

令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
検討				
準備が整い次第実施・検証・見直し（事業評価：毎年）				

2-7 バス待ち環境の整備

高齢者や障がい者の方でも、誰もが利用しやすいバス環境とするため、バス停の待合環境の充実を図ります。

■事業エリア

バス停周辺

■主な事業

事業	事業内容
ベンチの新設や上屋等の改修による待合環境の向上	バス停の利用状況などを踏まえながら、ベンチを新設するなどして待合環境の向上を図ります。

■実施主体

バス事業者、山北町

■事業実施スケジュール

令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
随時実施（事業評価：必要に応じ随時）				

2-8 鉄道施設におけるバリアフリー対策

高齢者や障がい者の方に配慮した公共交通サービスの充実を目指し、駅施設のバリアフリー対策を図ります。

■事業エリア

JR御殿場線の3駅

■主な事業

事業	事業内容
鉄道事業者への要望活動の実施	鉄道事業者に対して、高齢者・障がい者に配慮したバリアフリー対策について継続的に要望活動を行います。

■実施主体

鉄道事業者、山北町

■事業実施スケジュール

令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
継続実施（事業評価：必要に応じ随時）				

2-9 山北駅舎を活用した賑わいづくり

町の基幹交通である鉄道利用促進を図るため、改修予定の山北駅舎を利用した地域コミュニティ醸成を図ります。

■事業エリア

J R 御殿場線 山北駅

■主な事業

事業	事業内容
町内NPOによる駅切符販売の実施	町内NPOによる切符販売を実施し、駅周辺における地域コミュニティを醸成します。

■実施主体

鉄道事業者、NPO団体、山北町

■事業実施スケジュール

令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
継続実施（事業評価：必要に応じ随時）				

基本方針3 みんなで守り、みんなで育む地域公共交通の実現

3-1 モビリティ・マネジメントの推進

住民、行政、事業者が一体となり、公共交通の必要性に対する住民の意識啓発や利用促進に向けた取り組みを実施する。

■事業エリア

町内全域

■主な事業

事業	事業内容
公共交通の利用促進につながる取り組みの推進	小中学生や高齢者等を対象にバスやタクシーの乗り方の周知を図るとともに、日頃から公共交通を利用する意識醸成を図るためのイベント等の実施を検討します。
公共交通の必要性に対する住民の意識啓発	公共交通の必要性を住民が認識するよう、町広報紙やホームページなどを活用した啓発を実施します。

■実施主体

公共交通事業者、山北町

■事業実施スケジュール

令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
検討				
準備が整い次第実施・検証・見直し（事業評価：必要に応じ随時）				

3-2 交通事業者との連携による乗務員の確保

2024年問題が迫り、更なる公共交通の担い手不足が懸念されております。将来にわたり安定して維持できる公共交通の担い手確保を検討します。

■事業エリア

町内全域

■主な事業

事業	事業内容
運転手の確保に向けたPR活動の実施	交通事業者と連携し、バス・タクシー運転手の確保に向けて広報紙等によるPR活動を実施します。

■実施主体

公共交通事業者、山北町

■事業実施スケジュール

令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
検討				
準備が整い次第実施・検証・見直し（事業評価：必要に応じ随時）				

VI 計画の評価と達成状況の評価

1. 評価方法

実施スケジュールに沿って事業を実施した後、進捗状況や成果を定期的に把握・モニタリングし、計画の達成状況を評価します。その評価結果を踏まえて改善策を検討した上で、改めて事業を実施し、目標達成へと近づけていきます。

事業の推進や必要に応じた計画の見直しを行うため、計画の策定(Plan)、事業の実施(Do)、進行管理・評価の実施(Check)、評価結果を受けた見直し・改善(Action)を繰り返すPDCAサイクルによる計画の進行管理を、山北町地域公共交通会議において行います。

基本的に、毎年開催する山北町地域公共交通会議の場において、本計画に記載する事業の進捗と評価を報告していくものとします。

■PDCAサイクルによる計画の進行管理

Plan (計画)	地域公共交通計画に基づき、山北町地域公共交通会議が具体的な実施事業を検討し、計画策定を行います。
Do (実施)	目標を達成するために講じる実施事業を、実施スケジュールに沿って実施していきます。なお、目標達成に効果的につながるよう、各関係者が連携しながら推進します。
Check (評価)	目標を達成するために講じる実施事業が実施スケジュールに沿って進行されているか、また、目標が達成されているかについて、定期的に進行管理・評価を実施します。 目標については、設定した目標値への達成状況を確認します。
Action (改善)	実施事業の実施状況や目標の達成状況、さらには社会環境の変化などを踏まえ、取り組みの見直しや改善を図ります。

■事業の評価スケジュール

	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	令和 9年度	令和 10年度
1-1 公共交通不便地域における移動手段の確保	●	●	✓	●	✓
1-2 町が実施する移動支援事業等の見直し及び創設	●	●	✓	●	✓
1-3 先端技術による移動手段の活用に向けた検討	○	○	✓	○	✓
2-1 鉄道路線の輸送力の維持	○	○	✓	○	✓
2-2 路線バスの輸送力の維持	○	○	✓	○	✓
2-3 タクシーの利用促進	●	●	✓	●	✓
2-4 東名ハイウェイバスの利用促進	○	○	✓	○	✓
2-5 鉄道駅、バス停の機能強化	●	●	✓	●	✓
2-6 公共交通のわかりやすい情報提供	●	●	✓	●	✓
2-7 バス待ち環境の整備	○	○	✓	○	✓
2-8 鉄道施設におけるバリアフリー対策	○	○	✓	○	✓
2-9 山北駅舎を活用した賑わいづくり	○	○	✓	○	✓
3-1 モビリティ・マネジメントの推進	○	○	✓	○	✓
3-2 交通事業者との連携による乗務員の確保	○	○	✓	○	✓

凡例 ●：実施、○：必要に応じて実施、✓：令和8年度に中間評価、令和10年度に最終評価を実施

山北町地域公共交通計画

令和6年3月

発行：山北町 企画総務課 企画班

〒258-0195 神奈川県足柄上郡山北町山北 1301 番地 4

TEL：0465-75-3651

FAX：0465-75-3660